

令和6年版
森林総合研究所北海道支所
年 報

Annual Report 2024



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所北海道支所
Hokkaido Research Center
Forestry and Forest Products Research Institute

令和6年版森林総合研究所北海道支所年報

目 次

はじめに	1
I. 森林総合研究所研究課題一覧	2
II. 鳥類標識調査結果	6
III. 広報活動	19
IV. 研究業績	22
V. 資料	
1. 会議	28
2. 諸行事	29
3. その他の諸会議	39
4. 職員の研修・講習	30
5. 受託出張	31
6. 外国出張	34
7. 研修生の受入	35
8. 来訪者	36
9. 広報活動	37
10. 図書の収集・利用	38
11. 固定試験地・収穫試験地	39
12. 羊ヶ丘実験林の試験林一覧	40
13. 羊ヶ丘の気象	41
VI. 総務	
1. 沿革	44
2. 土地・施設	45
3. 組織	46
4. 職員の異動	47
5. 職員名簿	48
6. 事業予算額	49

はじめに

令和5年度は、国立研究開発法人森林研究・整備機構の第5期中長期目標期間(5か年)の3年目となります。今中長期も折り返しを迎え取りまとめに向けた準備を進めているところです。北海道支所では中長期目標期間において、北方天然林を中心とした森林の機能を持続的に発揮させる管理手法の開発に関する研究と附帯する業務を進めるため、北海道を中心とした森林や林業に関する試験研究を行っています。そのひとつとして、北海道、北海道大学農学部、北海道立総合研究機構と共同で実施している保持林業の実証実験があります。これは生物多様性など森林の公益的機能を配慮しながら木材生産を行うための実験です。北海道の主要な造林樹種であるトドマツの人工林と天然広葉樹林をフィールドとして、人工林の全ての樹木を伐採するのではなく一部を伐り残し、その残す量や残し方のパターンを変えて、公益的機能が維持される効果を調べています。実証実験は平成25年度に50年計画でスタートし、開始から10年間が経過したところで初期の成果についてまとめることができました。その成果を、令和5年度北海道地域研究成果発表会(令和6年2月13日、共催ホール)において「生物多様性に配慮した北方林の管理に向けて」というテーマで皆様にご紹介いたしました。

ほかにも、北海道支所では研究成果などを様々な手段で皆様に発信しております。コロナの影響で令和元年度以来中断していた北海道地域一般公開を5年ぶりに開催し、多数の来場者に北海道支所の研究成果や事業内容を直接紹介することができました。基本的には支所構内にある樹木園や標本館を随時公開しており、北海道を代表する樹木や森林生物の標本を直に見ることができます。ただ、令和5年度も支所構内の実験林でヒグマが自動撮影カメラで確認され、公開を中断したことも幾度かありました。支所構内の実験林にはほかにもエゾシカ、キタキツネ、イタチなども多く、豊かな自然を実感していただくと同時に野生生物の危険についてもご理解いただきますようお願いいたします。

北海道支所の令和5年度の研究成果や事業全体の概要をこの年報にまとめております。この年報のほかに、研究成果の一部はトピック的に支所の広報誌「北の森だより」や研究成果選集などで紹介しております。また、北海道支所Webサイトの情報も随時更新しています。興味を持たれた方はぜひご覧ください。

北海道支所ではこれまでと同様に、国・北海道森林管理局や北海道、市町村の行政機関や北海道立総合研究機構森林研究本部、大学などの研究機関、森林組合、民間事業体および地域の方々と連携して、研究成果の創出と成果の普及に努めて参ります。引き続き皆様のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

北海道支所長 齊藤哲

I. 令和5年度 森林総合研究所北海道支所担当研究課題一覧

課題番号		課 題 名	研究期間	支所担当 組織(G:グループ)	予算区分	受託相手方	事業・ プロジェクト名
1	重点課題	環境変動下での森林の多面的機能の発揮に向けた研究開発	3 ～ 7				
1ア	戦略課題	気候変動影響の緩和及び適応に向けた研究開発	3 ～ 7				
1アa	基幹課題	温室効果ガスの吸収・排出量の算定方法改善と気候変動影響評価手法の精緻化	3 ～ 7				
1アa1	実施課題	物質・エネルギーの動態モニタリングによる気候変動影響の評価と予測技術の開発	3 ～ 7	北海道支所	交付金	－	－
1アaPF18	外部プロ課題	東シベリア永久凍土帯に生育する樹木の異常気象に対する脆弱性	2 ～ ⁴ / ₅	北方林管理研究G	科研費【競】	日本学術振興会	若手研究(基金)
1アaPF31	外部プロ課題	森林土壌の炭素蓄積量報告のための情報整備	3 ～ 7	チーム北方林生態環境	政府等受託【公募】	林野庁	森林吸収源インベントリ情報整備事業
1アaPF36	外部プロ課題	山火事耐性に注目した熱帯季節林のタケ類4種の共存機構	4 ～ 8	植物土壌系研究G	科研費【競】	日本学術振興会	基盤研究B(補助金)
1アaPF41	外部プロ課題	気候変動がもたらす生態系攪乱が森林の炭素吸収量に与える影響の長期広域観測とリスクマップの構築	4 ～ 8	寒地環境保全研究G	政府等受託【公募】	林野庁	地球環境保全等試験研究費(地球一括)
1アaPF46	外部プロ課題	北半球高緯度域における干ばつ・豪雨に対する樹木脆弱性の把握とリスクの地図化	5 ～ 7	北方林管理研究G	科研費【競】	日本学術振興会	基盤研究C(基金)
1アaPF50	外部プロ課題	埋没泥炭の花粉・植物珪酸体分析による偽高山帯成立と森林化の変遷解明	5 ～ 8	植物土壌系研究G	科研費【競】	日本学術振興会	基盤研究C(基金)
1アaPS1	交プロ課題	ネットゼロエミッションの達成に必要な森林吸収源の評価	3 ～ 6	森林育成研究G	交付金プロ	－	交付金プロジェクト1
1アaPS2	交プロ課題	マイナスエミッションに向けた土壌メタン吸収の広域算定手法の開発	4 ～ 7	チーム北方林生態環境	交付金プロ	－	交付金プロジェクト1
1アb	基幹課題	気候変動緩和・適応のための多様な森林機能の活用	3 ～ 7				
1アbPF11	外部プロ課題	アンデス-アマゾンにおける山地森林生態系保全のための統合型森林管理システムの構築	2 ～ 7	植物土壌系研究G、寒地環境保全研究G	政府等外受託【競】	(研)科学技術振興機構	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)
1アbPF15	外部プロ課題	気候変動適応へ向けた森林遺伝資源の利用と管理による熱帯林強靱性の創出	4 ～ 8	森林育成研究G	政府等外受託【競】	(研)科学技術振興機構	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)
1アbPF18	外部プロ課題	特異的な遅延展葉フェノロジーを示す季節性熱帯樹種の適応戦略とその成立条件	5 ～ 7	チーム生態遺伝	科研費【競】	(研)科学技術振興機構	基盤研究C(基金)
1イ	戦略課題	森林生物の多様性と機能解明に基づく持続可能性に資する研究開発	3 ～ 7				
1イa	基幹課題	生態系からみた森林の生物多様性に関する研究開発	3 ～ 7				
1イa1	実施課題	生態系からみた森林の生物多様性に関する研究の高度化	3 ～ 7	北海道支所	交付金	－	－
1イaPF15	外部プロ課題	過去と現在の標本から探るハナバチと送粉ネットワークの変化	2 ～ 5	チーム生態遺伝	科研費【競】	日本学術振興会	基盤研究B(補助金)
1イaPF23	外部プロ課題	最終氷期におけるブナの潜在逃避地は北日本に存在したか？	2 ～ 5	森林育成研究G	科研費【競】	日本学術振興会	基盤研究C(基金)
1イaPF46	外部プロ課題	木材腐朽菌の多様性が枯死木に生息する昆虫群集に与える影響	5 ～ 7	森林生物研究G	科研費【競】	日本学術振興会	若手研究(基金)
1イaPF49	外部プロ課題	高標高産トドマツはなぜ早熟なのか:マツ科針葉樹における繁殖開始の遺伝的制御に迫る	5 ～ 7	森林育成研究G	科研費【競】	東京大学	基盤研究B(補助金)

課題番号		課 題 名	研究期間	支所担当 組織(G:グループ)	予算区分	受託相手方	事業・ プロジェクト名
11aTF4	事業・助成課題	ササの開花遺伝子発現量による花成開始時期の推定	5 ～ 5	森林育成研究G	寄付・助成金・共同研究	公益財団法人 秋山記念生命科学振興財団	—
11b	基幹課題	生物機能からみた森林の生物多様性に関する研究開発	3 ～ 7				
11b1	実施課題	生物機能からみた森林の生物多様性に関する研究の高度化	3 ～ 7	北海道支所	交付金	—	—
11bPF28	外部プロ課題	針葉樹の耐陰性の違いは光合成反応を通して冬季乾燥害の感受性に影響を与える	5 ～ 8	植物土壌系研究G	科研費【競】	日本学術振興会	基盤研究B(補助金)
11bPF31	外部プロ課題	亜寒帯性常緑樹の根系フェノロジーの遺伝的変異:根端成長と耐凍性に着目して	5 ～ 8	植物土壌系研究G	科研費【競】	日本学術振興会	若手研究(基金)
11bPF32	外部プロ課題	日本産針葉樹全種の遺伝的多様性統合解析	5 ～ 7	森林育成研究G	科研費【競】	東北大学	基盤研究A(補助金)
11bPS3	交プロ課題	トドマツにおける冠雪害抵抗性の地域間差の解明	4 ～ 5	植物土壌系研究G	交付金プロ	—	交付金プロジェクト2
11c	基幹課題	森林の生物多様性の保全と持続可能な利用に関する研究開発	3 ～ 7				
11c1	実施課題	森林の生物多様性の保全と持続可能な利用に関する研究の高度化	3 ～ 7	北海道支所	交付金	—	—
11cPF3	外部プロ課題	保残伐の大規模実験による自然共生型森林管理技術の開発	30 → 4 → 5	森林生物研究G	科研費【競】	日本学術振興会	基盤研究A(補助金)
11cPF7	外部プロ課題	衛星画像から広大な熱帯林の生物多様性を推定するモデルの開発と多様性情報の地図化	3 → 4 元 → 4 → 5	森林生物研究G	科研費【競】	日本学術振興会	国際共同研究加速基金
11cPF18	外部プロ課題	生物多様性が森林の経済価値を高めることを実証する	3 ～ 6	北方林管理研究G	科研費【競】	日本学術振興会	若手研究(基金)
11cPF30	外部プロ課題	保持林業の費用便益分析—森林の審美的価値に着目した経済価値評価—	5 ～ 7	森林生物研究G	科研費【競】	日本学術振興会	若手研究(基金)
11cTF7	事業・助成課題	人工林で生物多様性を育む樹木の特徴—伐採時の選木基準開発—	5 ～ 6	森林生物研究G	寄付・助成金・共同研究	公益財団法人 日本生命財団	日本生命財団研究助成
1ウ	戦略課題	森林保全と防災・減災に向けた研究開発	3 ～ 7				
1ウa	基幹課題	森林における水・物質循環の機構解明と環境保全機能の評価技術の開発	3 ～ 7				
1ウa1	実施課題	水循環・物質循環が関与する森林の機能の評価技術の開発	3 ～ 7	北海道支所	交付金	—	—
1ウaPF5	外部プロ課題	樹幹流による放射性セシウムの土壌深部への供給が樹木の吸収へ及ぼす影響の解明	2 → 4 → 5	植物土壌系研究G	科研費【競】	日本学術振興会	若手研究(基金)
1ウaPF21	外部プロ課題	ケイ酸集積植物が生み出す土壌—プラント・オパール—の土壌粒径分布への寄与—	4 ～ 7	植物土壌系研究G	科研費【競】	日本学術振興会	基盤研究C(基金)
1ウaPS2	交プロ課題	放射能汚染地域の林業再生に関する技術開発	4 ～ 7	森林育成研究G	交付金プロ	—	交付金プロジェクト1
2	重点課題	森林資源の活用による循環型社会の実現と山村振興に資する研究開発	3 ～ 7				
2ア	戦略課題	気候変動影響の緩和産物の安定供給と多様な森林空間利用の促進に資する研究開発和及び適応に向けた研究開発	3 ～ 7				
2アa	基幹課題	維持管理コストの低い森林造成に向けた造林・育林技術の開発	3 ～ 7				
2アa1	実施課題	造林・育林技術の実証とシーズ創出に向けた研究開発	3 ～ 7	北海道支所	交付金	—	—
2アaPF4	外部プロ課題	常緑針葉樹の光合成調節機構の複合体プロテオミクスおよび分光学的手法による統合的解析	2 ～ 5	植物土壌系研究G	科研費【競】	北海道大学	基盤研究B(補助金)

課題番号	課 題 名		研究期間	支所担当 組織(G:グ ループ)	予算区分	受託相手方	事業・ プロジェクト名
2アaPF14	外部プロ課題	日本全国の林地の林業採算性マトリクス 評価技術の開発	5 ～ 9	森林育成研 究G、北方林 管理研究G	政府等受託 【公募】	農林水産省	みどりの食料 システム戦略 実現技術開発・ 実証事業のうち 農林水産研 究の推進(委託 プロジェクト研 究)
2アaTF2	事業・助成課題	カラマツ類及びトドマツ種苗配置適正化 と優良品種導入による炭素吸収量の増 加効果の評価	4 ～ 6	森林育成研 究G	寄付・助成 金・共同研究	(地独)北海 道立総合研 究機構	—
2アb	基幹課題	森林資源の持続的利用に向けた林業生 産技術の開発	3 ～ 7				
2アb1	実施課題	森林デジタル情報の活用による林業生 産技術の高度化	3 ～ 7	北海道支所	交付金	—	—
2アbTF5	事業・助成課題	北欧をモデルにした十勝型機械化林業 経営の実証	4 ～ 5	チーム林業 機械、北方林 管理研究G	寄付・助成 金・共同研究	(一社)林業 機械化協会	令和5年度「新 しい林業」に向 けた林業経営 育成対策のう ち経営モデル 実証事業
2アc	基幹課題	森林資源・空間の持続的な利用のための 評価・計画・管理技術の開発	3 ～ 7				
2アc1	実施課題	持続的な林業経営および森林空間利用 のための評価・計画・管理技術の開発	3 ～ 7	北海道支所	交付金	—	—
2アcPF20	外部プロ課題	令和5年度森林情報の高度化推進に向 けた手法検討に関する調査委託事業	5 ～ 5	北方林管理 研究G	政府等受託 【公募】	林野庁	令和5年度森 林情報の高度 化推進に向け た条件整備等 に関する調査 委託事業
2アd	基幹課題	健全な林業経営確立、山村地域振興、持 続的木材利用、新たな木材需要創出に資 する方策の提示	3 ～ 7				
2アd1	実施課題	多様化する森林との関わりを支える社 会経済的・政策的方策の提示	3 ～ 7	北海道支所	交付金	—	—
2アdPS3	交プロ課題	EBPM実現のための森林路網B/C評価 ツールの開発と社会実装	3 ～ 6	北方林管理 研究G	交付金プロ	—	交付金プロ ジェクト1
2イ	戦略課題	生物特性を活用した防除技術ときのこ 等微生物利用技術の開発	3 ～ 7				
2イa	基幹課題	森林・林業・林産物に対する病虫獣害軽 減技術体系の開発	3 ～ 7				
2イa1	実施課題	樹木・林業病害の実効的制御技術の開発	3 ～ 7	北海道支所	交付金	—	—
2イa3	実施課題	森林林業害獣の実効的防除技術の開発	3 ～ 7	北海道支所	交付金	—	—
2イaPF22	外部プロ課題	樹木の土壌病害の早期発見手法の開発	3 ～ 5	植物土壌系 研究G	科研費【競】	日本学術 振興会	基盤研究B (補助金)
2イaPF24	外部プロ課題	「官報」記事の精査を中心とした長期 データの整備による近代日本の森林被 害実態の解明	3 ～ 5	チーム森林 病害	科研費【競】	日本学術 振興会	基盤研究C (基金)
2イaPF28	外部プロ課題	根株腐朽病の被害拡大要因の解明—激 害化へのターニングポイント	3 ～ 5	植物土壌系 研究G	科研費【競】	日本大学	基盤研究B (補助金)
2イaPF37	外部プロ課題	シカ肉の科学的根拠に基づく品質基準 と適切な取り扱い手法の確立	4 ～ 6	森林生物研 究G	科研費【競】	日本学術 振興会	基盤研究C (基金)
2イaPF38	外部プロ課題	腐朽菌—寄生バチ共生系で機能する情 報化学物質の進化プロセスの解明	4 ～ 7	森林生物研 究G	科研費【競】	日本学術 振興会	基盤研究B (補助金)
2イaPF42	外部プロ課題	With / Postナラ枯れ時代の広葉樹 林管理戦略の構築	4 ～ 6	森林育成研 究G	政府等外 受託【競】	(研)農業・食 品産業技術 総合研究機 構 生物系特 定産業技術 研究支援セ ンター	イノベーション 創出強化研究 推進事業
2イaPF53	外部プロ課題	マツ材線虫病の萎凋枯死メカニズムの全 容解明	5 ～ 6	植物土壌系 研究G	科研費【競】	東京大学	基盤研究A (補助金)

課題番号	課 題 名		研究期間	支所担当 組織(G:グループ)	予算区分	受託相手方	事業・ プロジェクト名
21aPS9	交プロ課題	高解像度の集団遺伝解析によるナラ枯れ拡大地域におけるカシノナガキクイムシの由来の解明	4 ～ 5	森林生物研究G	交付金プロ	－	交付金プロジェクト2
21b	基幹課題	きのこ等微生物の特性解明と生産利用技術の開発	3 ～ 7				
21b1	実施課題	きのこ等微生物の特性解明と生産性及び有益性向上技術の開発	3 ～ 7	北海道支所	交付金	－	－
21bPF10	外部プロ課題	日本産トリュフの効果的な菌株採集技術の開発	3 ～ 6	森林生物研究G	科研費【競】	日本学術振興会	基盤研究C(基金)
21bPF11	外部プロ課題	気候と土壌酸性度の2勾配に対する根圏コンソーシアム応答の解明	3 ～ 5	森林生物研究G	科研費【競】	三重大学	基盤研究B(補助金)
21bPF13	外部プロ課題	国産トリュフの林地栽培に向けての技術体系の構築	4 ～ 6	森林生物研究G	政府等外受託【競】	(研)農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター	イノベーション創出強化研究推進事業
2ウ	戦略課題	木材利用技術の高度化と需要拡大に向けた研究開発	3 ～ 7				
2ウa	基幹課題	用途に応じた木材製品の安定供給に向けた特性評価及び加工技術の開発	3 ～ 7				
2ウaPF15	外部プロ課題	早生樹等の国産未活用広葉樹材を家具・内装材として利用拡大するための技術開発	4 ～ 6	北方林管理研究G	政府等外受託【競】	(研)農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター	イノベーション創出強化研究推進事業
2エ	戦略課題	木質新素材と木質バイオマスエネルギーの社会実装拡大に向けた研究開発	3 ～ 7				
2Eb	基幹課題	木質バイオマスエネルギーの供給とエネルギー利用拡大に向けた技術の開発	3 ～ 7				
2Eb1	実施課題	木質バイオマスエネルギーの利用拡大を促進する技術の開発	3 ～ 7	北海道支所	交付金	－	－
2EbPF5	外部プロ課題	ヤナギ超短伐期施業技術を活用した木質バイオマス燃料供給体制構築の実証事業	5 ～ 6	チーム林業機械、チーム生態遺伝、北方林管理研究G	政府等外受託【競】	(研)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業

Ⅱ. 令和5年度羊ヶ丘実験林鳥類標識調査結果

川路則友
(元職員)

[はじめに]

北海道支所実験林(羊ヶ丘実験林)では、平成元年(1989年)から鳥類標識調査(環境省鳥類標識調査事業、以下、バンディング)を継続して行っている。本調査事業の歴史、意義、成果等については、水田ら(2022)に詳しい。羊ヶ丘実験林における調査結果は、平成15年(2004年)度以降、毎年、北海道支所年報に公表しており、平成25年度までに得られた足環回収結果等については、「北の森だより」でも報告した(川路・河原 2013)。実験林での調査期間はすでに通算30年以上にも及び、令和4年(2022年)時点で、合計93種73,031羽にあらたに足環を装着して放鳥した。同一調査地におけるこのような長期間のモニタリング結果の蓄積は、将来的に貴重なものになると考えられる。また、回収記録等の蓄積だけでなく、鳥類の繁殖生態研究などのツールとしてもバンディングを利用し、これまで多くの報告を行ってきた(たとえば、Kawaji et al. 1996、川路・広川 1998、上沖ら 2014、川路 2017、川路ら 2023など)。令和5年(2023年)度の調査は、鳥類標識調査協力調査員(バンダー)として登録されている川路則友(元職員)がおもに行った。そのほか、実験林内で独自に鳥類研究を行っている本所鳥獣生態研究室の青木大輔氏、東海大学・松井晋氏(ともにバンダーでもある)による独自の標識調査結果も含めて羊ヶ丘実験林の調査結果として集約、解析等を行った。

以下に、令和5年(2023年)度の結果について詳述する。

[材料と方法]

令和5年(2023年)度は令和5年(2023年)4月15日から11月5日までの間で合計79日間の調査を行った。春秋の渡り期には、実験林内を通過する渡り鳥を捕獲したのち、標識調査用の環境省製金属足環を付け放鳥したほか、繁殖期には繁殖鳥モニタリング調査を行った。

調査には、環境省から鳥類標識調査用の鳥獣捕獲許可証(第21-03-0394号)の交付を受け、渡

り期のバンディングには実験林内3林班、6林班および8林班の適当な場所に、捕獲用網(カスミ網 ATX、36 mmメッシュ×12 m、もしくはHTX、30 mmメッシュ×12 m)を時期、天候に応じて7～21枚設置して行った。調査はおもに早朝(日の出時刻前後)から開始し、捕獲効率が低下する(川路1996)とされる9:00amころまでで調査を終えた。網場の見回りは頻繁に行い、捕獲された鳥類への負担が少なくなるように努めた。また足環の装着後、必要に応じて観察、体部計測、撮影等を行ったのち、すみやかに放鳥した。使用したカスミ網のサイズ、調査地環境等については、これまでとほぼ同様である(詳しくは河原・川路2011参照)。

繁殖鳥モニタリング調査については、羊ヶ丘実験林の6林班と8林班内に1箇所ずつ設けた固定調査地に、それぞれカスミ網(HTX)を5枚ずつで合計10枚張り、5月末から8月中旬までの期間を10日間ずつ8つの期に分け、各期で1回ずつ合計8回の調査を行った。調査は、日の出時刻もしくは午前4時のどちらか遅い方の時間に開始して6時間、網を開き、約30分の間隔で見回りを行った。捕獲した鳥類には、環境省製金属足環を装着したのち、捕獲時間、網番号を記載し、性および齢を判別、自然翼長、最大翼長および体重を測定、記録した。また脂肪量、抱卵斑の有無、総排泄腔突出具合、換羽状況などの観察、記録を行ったのちに、すみやかに放鳥した。これは、ヨーロッパおよび北米で体系的に行われている繁殖期における標準化された手法によるモニタリングを、我が国でも山階鳥類研究所が2012年から全国各地で開始しているもので、羊ヶ丘実験林でも2013年から参加しているものである(川路・中田 2015)。調査手法は、山階鳥類研究所保全研究室作成による繁殖鳥モニタリング調査マニュアル(第1版)に従った(千田ら 2017)。

[結果と考察]

令和5年度は、合わせて43種1,490羽(新放鳥1,352羽、再捕獲138羽)を捕獲、放鳥した(表

1)。1日あたりの放鳥数は18.9羽であった。

もっとも放鳥数が多かったのは、クロツグミで194羽(全体の13.0%、新放鳥184羽、再放鳥10羽、以下そのように表記)であった。そのほかに放鳥数合計が100羽を超えた鳥類は、キビタキ184羽(12.3%、152羽、32羽)、アオジ182羽(12.2%、173羽、9羽)、メジロ154羽(10.3%、148羽、6羽)、シジュウカラ143羽(9.6%、125羽、18羽)、ルリビタキ122羽(8.2%、118羽、4羽)、ウグイス111羽(7.4%、104羽、7羽)の6種であった。全体の捕獲数が減少したこともあるが、例年のように突出した捕獲数を示す鳥種が見られず、かなり均等に捕獲されたことが今年度の特徴と言える。昨年、捕獲数が100羽以上に回復したヤブサメは一昨年と同様に、100羽を下回った(新放鳥数92羽、再放鳥数5羽)。2010年以降のアオジとヤブサメの調査日1日当たりの新放鳥数を示した(図1)。いずれの種も、2010年以降、有意に減少している傾向が明らかとなった($p < 0.01$, Spearman rank correlation test)。直近数年間のアオジの捕獲数減少は北海道内にある環境省の主要鳥類観測ステーションでも見られているが、その原因は不明である(環境省自然環境局 2021; 2022; 2023)。

春季の渡りについては、4月下旬～5月初旬にルリビタキの放鳥数が多い傾向が認められ、例年と類似していた。秋季の渡りに関しては、キビタキが8月下旬から9月中旬にかけて、メジロとクロツグミがおもに9月下旬から10月中旬にかけて多く捕獲されるという傾向が認められたが、前述のように捕獲数自体がかなり減少していたことから、明確なピークは見られなかった。

令和5年度内での標識鳥の再捕獲については、リピート(Rp、羊ヶ丘実験林で放鳥されたあと6ヶ月以内に同地で再捕獲された場合)が77羽と最も多く、リターン(Rt、羊ヶ丘実験林で放鳥したあと6ヶ月以上経過して同地で再捕獲された場合)が59羽であった。また、リカバリー(Rc、羊ヶ丘実験林もしくは5km以上離れた他所で放鳥された個体が5km以上離れた別の場所もしくは羊ヶ丘実験林で再捕獲された場合)が2例であった。

リターン(Rt)記録は、通常の野外観察では個体識別の困難な野生鳥類の生存期間を知るうえで貴重なデータとなる。新放鳥後3年以上経過して、令和5年度内に再度羊ヶ丘実験林で再び回収され

たものは7種11個体あった。新放鳥されてから再捕獲するまでの期間のうち、もっとも長いものを最長生存期間とし、これまで羊ヶ丘実験林で記録された各鳥種で性ごとに明らかになった最長生存期間を表2に示した。そのうち、令和5年度内に最長生存期間を更新したのは、アカゲラ(オス)の8年11月(2014年5月2日放鳥、2023年4月15日回収)、アオジ(オス)の7年9月(2015年10月10日放鳥、2023年7月20日回収)、キビタキ(オス)の6年0月(2017年5月27日放鳥、2023年5月29日回収)およびクロジ(メス)の4年8月(2018年10月11日放鳥、2023年6月20日回収)の4例であった(表2)。

令和5年度中に判明したりカバリー(Rc)記録としては、9月30日に8km南方に位置する西岡国有林1206林班で放鳥したウグイス(オス幼鳥)が、8日後に羊ヶ丘実験林で回収された例、10月21日に羊ヶ丘実験林で放鳥したアオジ(メス幼鳥)が2日後の10月23日に同じく西岡国有林1206林班で回収された例があった。これまでも渡り期に西岡国有林1206林班との間で放鳥・回収のやりとりの例がよく見られることから、近距離ではあるが、多くの種が渡りの経路として両地域を利用していることが推定された。(表3)。

繁殖鳥モニタリング調査では、令和5年(2023年)度の調査期間中に18種105羽が新放鳥もしくはリターン(Rt)回収された(表4)。捕獲総数ではキビタキ、センダイムシクイ、ヤブサメの順で多かったが、キビタキとセンダイムシクイでは幼鳥の割合が高いことが特徴であった。ついでクロツグミ、クロジ、シジュウカラが多かった。特筆すべきこととして、6月20日にウソの幼鳥2羽が捕獲されたことが挙げられる(図2)。ウソは比較的高標高地で繁殖する鳥で、羊ヶ丘実験林を含む札幌市周辺の低標高域では渡り期もしくは冬季に見られるだけであり、これまで繁殖の記録はなく、繁殖期に捕獲された例もなかった(北海道野鳥愛護会 2021など)。しかし今回捕獲された幼鳥は、第一回冬羽に換羽する前の、巣立ってそれほど間もない個体と思われ、しかも2羽とも同時に同じ網にかかっていたことから、家族群もしくは幼鳥群で通過した際に捕獲されたものと考えられた。またこれまで報告されてきたウソの繁殖生態によると、繁殖個体群は巣立ち後も渡り開始までかなり長期にわたって同一地域付近にとどまること

が多いことから、高標高地で巣立った家族群が早期に低標高地まで降りてきたというより、羊ヶ丘実験林近くで偶発的に繁殖したものの可能性が高いと思われた(川路ら 2024)。今後、このような捕獲が再度起きるかどうかが、注意深く見守る必要があり、繁殖鳥モニタリング調査を継続することの重要性がさらに示されたことになる。

なお、令和5年度に実験林内で行ったすべての標識調査結果をまとめるにあたり、本所野生動物研究領域・青木大輔氏からは15日間、東海大学准教授・松井晋氏からは11日間の独自標識データを提供いただいた。深く感謝申し上げます。

[文献]

- 北海道野鳥愛護会 (2021) 私たちの探鳥会 グラフで見る探鳥会50年の記録
- 上沖正欣・川路則友・河原孝行(2014)ヤブサメ *Urosphena squameiceps* における繁殖地への帰還率. 日本鳥類標識協会誌 26: 62-68.
- 環境省自然環境局生物多様性センター(2021) 2019年鳥類標識調査報告書.
- 環境省自然環境局生物多様性センター(2022) 2020年鳥類標識調査報告書.
- 環境省自然環境局生物多様性センター(2023) 2021年鳥類標識調査報告書.
- 河原孝行・川路則友(2011)平成22年度羊ヶ丘実験林鳥類標識調査結果. 平成23年版森林総合研究所北海道支所年報: 24-30.
- 川路則友(1996) 春の渡り期における林床性鳥類捕獲数の日周変化. 日本鳥学会誌45: 175-182.
- 川路則友(2017)森林性夏鳥の幼鳥における出生地周辺滞留期間. 日本鳥類標識協会誌 29: 73-84.
- 川路則友・広川淳子(1998)ヤブサメにおける Complete post-juvenile moultについて. 日本鳥類標識協会誌 13: 1-7.
- 川路則友・河原孝行(2013)羊ヶ丘の鳥はどこから来て、どこへ行く? 北の森だより 10: 4-8.
- 川路則友・中田達哉(2015)標準化された標識調査による鳥類繁殖モニタリングの有効活用. 日本鳥類標識協会誌27: 14-22.
- Kawaji, N., Kawaji, K. & Hirokawa, J. (1996) Breeding ecology of the

Short-tailed Bush Warbler *Cettia squameiceps* in western Hokkaido. Jap. J. Ornithol. 45: 1-15.

川路則友・上沖正欣・川路仁子 (2023) センダイムシクイの繁殖生態とツツドリによる托卵. 日本鳥学会誌 72: 181-194.

川路則友・松井 晋・石倉日菜子・市原晨太郎(2024)北海道西部低標高林におけるウソの繁殖可能性. Bird Research 20: S25-S34.

水田拓・尾崎清明・澤祐介・千田万里子・富田直樹・仲村昇・森本元・油田照秋(2022)日本の鳥類標識調査—その意義と今後の展望. 山階鳥類学雑誌 54: 71-102

日本鳥学会(2012)日本鳥類目録 改訂第7版. 日本鳥学会.三田.

千田万里子・仲村 昇・尾崎清明(2017)2012～2016 年に福島県で行われた繁殖鳥モニタリング調査の結果報告. 山階鳥類学雑誌 48: 117-129.

表1. 令和5年度日別放鳥一覧（その1）

月日	4/15	4/18	4/22	4/23	4/24	5/1	5/3	5/4	5/5	5/7	5/8	5/13	5/19	5/21	5/22	5/24	5/26	5/27
天候	F	F	C	F	F	F	C	C	F	F	F	F	F	C/R	F	F	F	F
新放鳥数	9	12	23	25	22	25	26	9	12	13	5	12	8	1	3	9	2	0
再捕獲数(R)	1	4	4	5	5	1	5	2	2	3	0	1	4	0	0	0	1	2
種名／種類数	5	7	13	10	14	8	11	5	9	9	4	6	8	1	3	2	1	2
	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N
コゲラ	2					1						1						
オオアカゲラ																		
アカゲラ	1		2															
カケス																		
ハシブトガラ	2	1	1	1	2		2		1				1					
コガラ																		
ヤマガラ		1	1	1	2	1	1	1					1					
ヒガラ	3	1	1	2	3						1							
シジュウカラ	2	2	7	3	1	2	2	3	2		3	1			1	8		
ヒヨドリ															1			
ウグイス		1	5	3	4	1	3	1	2	1	1	1	1					
ヤブサメ				1	1	3	2	1	1	1								
エナガ				1	1					1			1					
オオムシクイ														1				
エゾムシクイ																		
センダイムシクイ										1	3		1	1		1		
メジロ			1			2	2	1			2	3			1			1
シマセンニュウ																		
ゴジュウカラ																		
キバシリ				1		1		1		1								
ミソサザイ		1	1															
クロツグミ			1			1	1			1		2						
マミチャジナイ																		
シロハラ					1													
アカハラ																		
ツグミ																		
コマドリ																		
ノゴマ																		
コルリ									1	2			1					
ルリビタキ			3	8	4	13	9	6	2	4	1	5						
コサメビタキ																		
キビタキ													1	1	1		1	2
オオルリ																		
アトリ			1		1													
カワラヒワ					1													
ベニヒワ																		
ベニマシコ																		
ウソ		2																
シメ					1													
カシラダカ																		
ミヤマホオジロ																		
アオジ			2	1	2		5		1				2					
クロジ			4	4		2	3		3	1		1	2					

種の配列は、基本的に日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）によった。天候：F（晴れ）、C（曇り）、R（雨）、S（霧）。放鳥種別：R（再捕獲）、N（新放鳥）。

表1. 令和5年度日別放鳥一覧（その2）

月日	5/28	5/29	5/30	5/31	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/12	6/11	6/20	6/23	6/30	7/2
天候	F	R	C	F	F	F	C	F	F	C	F	F	F	F	F	C	C	F
新放鳥数	6	3	5	15	4	33	8	1	2	4	2	1	18	9	11	2	4	2
再捕獲数(R)	2	4	1	5	2	2	0	0	0	0	0	0	0	5	3	1	4	0
種名／種類数	4	3	3	11	2	3	3	1	1	4	1	2	1	8	9	1	8	2
	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N
コゲラ																		
オオアカゲラ	1																	
アカゲラ																		
カケス																		
ハシブトガラ				1	1													
コガラ			1															
ヤマガラ																		
ヒガラ																		
シジュウカラ				1		29	4	1	2	1	2		18	1	4	1	1	
ヒヨドリ																		
ウグイス															1		1	
ヤブサメ				1										1	4			
エナガ																		
オオムシクイ				1			1			1				1			1	
エゾムシクイ																		
センダイムシクイ	1		1	2	3		3	3		1				1		1	2	1
メジロ				1													1	1
シマセンニュウ										1								
ゴジュウカラ															1			
キバシリ																		
ミソサザイ																		
クロツグミ		1		3										1	1			
マミチャジナイ																		
シロハラ																		
アカハラ																		
ツグミ																		
コマドリ																		
ノゴマ																		
コルリ				1										1	1			
ルリビタキ																		
コサメビタキ																		
キビタキ	1	4	3	2	2	1	3	2	3	2	1				1			1
オオルリ													1					
アトリ																		
カワラヒワ																		
ベニヒワ																		
ベニマシコ																		
ウソ															2			
シメ																		
カシラダカ																		
ミヤマホオジロ																		
アオジ	1	1		1										1			1	
クロジ				2	1									3	2			1

種の配列は、基本的に日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）によった。天候：F（晴れ）、C（曇り）、R（雨）、S（霧）。放鳥種別：R（再捕獲）、N（新放鳥）。

表1. 令和5年度日別放鳥一覧（その3）

月日	7/10	7/20	7/30	8/11	8/18	8/19	8/21	8/23	8/26	9/3	9/4	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10	9/22
天候	C	C	C	F	C	C	C	F	F	F	C	C	F	F	C	F	F
新放鳥数	6	9	14	24	4	43	27	35	30	18	16	15	19	26	18	25	1
再捕獲数(R)	4	6	1	1	0	1	3	3	4	3	3	1	1	0	1	6	0
種名／種類数	6	8	10	7	4	11	8	5	7	4	7	5	7	6	5	8	1
	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N
コゲラ		2															
オオアカゲラ																	
アカゲラ			1			1							1				
カケス																	
ハシブトガラ		1															
コガラ														1			
ヤマガラ									1							1	
ヒガラ																	
シジュウカラ			1			1	1									1	1
ヒヨドリ																	
ウグイス	1	1	1			1											
ヤブサメ		1	2	1		3	3	10	11	6	5	3	5	11	8	5	
エナガ																	
オオムシクイ																	
エゾムシクイ	1		1	3	1			1			1		2				
センダイムシクイ		1	2	10	1	1											
メジロ	2					3	2		2	3	1	2	2	3	1	8	
シマセンニュウ																	
ゴジュウカラ						1											
キバシリ																	
ミソサザイ																	
クロツグミ	1	1	1	1	1	11	6	3	2	1	3	1	2	1	2	3	4
マミチャジナイ																	
シロハラ																	
アカハラ																	
ツグミ																	
コマドリ																	
ノゴマ																	
コルリ			1	2	1	1	3	4	1		1		1				
ルリビタキ																	
コサメビタキ			1														
キビタキ	4	2	4	4	1	6	1	19	2	11	3	17	3	13	2	6	1
オオルリ																	
アトリ																	
カワラヒワ																	
ベニヒワ																	
ベニマシコ																	
ウソ																	
シメ																	
カシラダカ																	
ミヤマホオジロ																	
アオジ		1			1		1				1	1				1	1
クロジ	1				1	1	1		1					1	1	1	

種の配列は、基本的に日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）によった。天候：F（晴れ）、C（曇り）、R（雨）、S（霧）。放鳥種別：R（再捕獲）、N（新放鳥）。

表1. 令和5年度日別放鳥一覧（その4）

月日	9/23	9/24	9/26	9/27	9/29	9/30	10/1	10/3	10/8	10/9	10/10	10/12	10/13	10/14	10/15	10/18	10/21	10/22	10/23
天候	C	F	C	C	C	C	F	C	F	F	C	F	F	C	F	F	F	C	F
新放鳥数	14	23	21	45	52	55	32	33	35	23	27	59	28	22	44	24	21	10	13
再捕獲数(R)	0	0	2	0	1	0	1	3	4	0	2	1	2	2	1	0	2	0	5
種名／種類数	5	6	7	8	8	7	7	6	11	8	10	11	8	9	9	10	7	5	10
	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N
コゲラ																			
オオアカゲラ									1										
アカゲラ											1								
カケス						1													1
ハシブトガラ																			
コガラ					1								1			1			
ヤマガラ														1			1		1
ヒガラ		1									1				1			1	
シジュウカラ	1	12		1		1	1			1	4	2	2		1	1			4
ヒヨドリ																			
ウグイス				3	5	1	5	3	1 3	7	6	11	1 3	2	6	6	7		1
ヤブサメ	2		1	1	1				1										1
エナガ																			
オオムシクイ																			
エゾムシクイ																			
センダイムシクイ																			
メジロ	9	5	4	13	9	17	8	2	4			10	1 16	5		4			
シマセンニュウ																			
ゴジュウカラ												1		1	2	1			
キバシリ																			
ミソサザイ																			
クロツグミ		1	5	20	26	27	11	2 21	6	6	1 1	1 2		1	1	1	1		1
マミチャジナイ										1			1		1				
シロハラ										1		2		2		3	1	1	
アカハラ									1										
ツグミ																			
コマドリ									2		2					1	1		
ノゴマ			2		1	2	1	1		1	1	1	1						
コルリ																			
ルリビタキ									1			3		1	2	5	1 10	5	2 4
コサメビタキ																			
キビタキ	1		2	1			1	1	1		1								
オオルリ																			
アトリ																			
カワラヒワ																			
ベニヒワ																			
ベニマシコ																		1	1
ウソ																			
シメ																			
カシラダカ												1							
ミヤマホオジロ																			
アオジ		3	1 4	5	8	6	6	1 5	15	5	1 9	24	3	1 9	28	1		2	1
クロジ	1	1	1 3	1	1 1			2 1	1	1	1	2	1	1	1 2		1		1

種の配列は、基本的に日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）によった。天候：F（晴れ）、C（曇り）、R（雨）、S（霧）。放鳥種別：R（再捕獲）、N（新放鳥）。

表1. 令和5年度日別放鳥一覧（その5）

月日	10/24	10/26	10/27	10/29	10/30	10/31	11/5	79日間		
天候	F	F	C	C	F	F	F			
新放鳥数	18	18	11	26	11	3	8	1,352羽	1,490羽	
再捕獲数(R)	1	0	1	1	0	1	1	138羽		
種名／種類数	7	6	8	9	6	2	8	43種		
	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N
										合計
コゲラ								1	5	6
オオアカゲラ				1				2	1	3
アカゲラ								1	6	7
カケス								0	2	2
ハシブトガラ	1							3	12	15
コガラ							1	0	6	6
ヤマガラ					1	1		9	7	16
ヒガラ								1	14	15
シジュウカラ				1				18	125	143
ヒヨドリ								0	1	1
ウグイス	3	2	1	3	1			7	104	111
ヤブサメ								5	92	97
エナガ								1	4	5
オオムシクイ								0	5	5
エゾムシクイ								0	10	10
センダイムシクイ								5	37	42
メジロ			1	1				6	148	154
シマセンニュウ								0	1	1
ゴジュウカラ	1		1	3			1	2	11	13
キバシリ							1	2	2	4
ミソサザイ				1	1		1	0	5	5
クロツグミ								10	184	194
マミチャジナイ								0	3	3
シロハラ			1					0	12	12
アカハラ								0	1	1
ツグミ							1	0	1	1
コマドリ		1		1				0	8	8
ノゴマ								1	10	11
コルリ								0	22	22
ルリビタキ	1	6	4	2	13	3	3	1	4	118
コサメビタキ									0	1
キビタキ									32	152
オオルリ									0	1
アトリ									0	2
カワラヒワ									0	1
ベニヒワ			2				2		0	4
ベニマシコ	2				3				0	7
ウソ			1						0	5
シメ									0	1
カシラダカ	1	3					1		0	6
ミヤマホオジロ		1							0	1
アオジ	4	7	3	3	2				9	173
クロジ									19	41

種の配列は、基本的に日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）によった。天候：F（晴れ）、C（曇り）、R（雨）、S（霧）。放鳥種別：R（再捕獲）、N（新放鳥）。

表2. これまで羊ヶ丘で記録された各種鳥類の最長生存記録

種名	性	年	月	回収年
ハシブトガラ	メス	9	5	2002
コゲラ	メス	9	0	2008
アカゲラ*	オス	8	11	2023
アオジ	メス	8	7	2003
ハシブトガラ	オス	7	9	2004
アオジ*	オス	7	9	2023
コルリ	オス	7	0	2012
ヤマガラ	不明	6	11	2017
コルリ	メス	6	1	2018
クロツグミ	オス	6	1	2022
ハシブトガラ	不明	6	0	2001
オオアカゲラ	オス	6	0	2021
キビタキ*	オス	6	0	2023
コゲラ	オス	5	11	2012
センダイムシクイ	オス	5	11	2004
シジュウカラ	オス	5	6	1999
クロジ*	メス	4	8	2023
エナガ	不明	4	6	2022
コガラ	不明	4	3	1992
センダイムシクイ	メス	4	0	2019
キビタキ	メス	4	0	1996
ヤブサメ	オス	4	0	2006
ヒヨドリ	不明	4	0	1993
キジバト	不明	3	11	2007
エナガ	メス	3	11	2022
クロツグミ	メス	3	11	2017
ヤブサメ	メス	3	8	1999
エナガ	オス	3	8	2006
シジュウカラ	メス	3	6	1994
オオアカゲラ	メス	3	2	2013
アカゲラ	メス	3	2	2010
ウグイス	オス	3	1	2007
ヒガラ	オス	3	1	2002
ヤブサメ	不明	3	0	2013
ウグイス	メス	3	0	2010
キバシリ	オス	3	0	2004

*令和5年度にあらたに最長生存記録が更新された種

表3. 令和5年度中に判明した標識個体の移動回収

種名	足環番号	性齢	放鳥日 回収日	放鳥場所 回収場所	経過日数	距離
ウグイス	2AR-07223	オス幼鳥 オス幼鳥	20230930 20231008	札幌市豊平区西岡国有林1206林班 森林総合研究所北海道支所実験林	8日	8km
アオジ	2AR-70770	メス幼鳥 メス幼鳥	20231021 20231023	札幌市豊平区西岡国有林1206林班 森林総合研究所北海道支所実験林	2日	8km

表4. 令和5年度繁殖鳥モニタリング調査結果

2023	オス成鳥			メス成鳥			性不明成鳥			幼鳥			合計	
	新放鳥	再放鳥 (Rt)	再放鳥 (Rp)	新放鳥	再放鳥 (Rt)	再放鳥 (Rp)	新放鳥	再放鳥 (Rt)	再放鳥 (Rp)	新放鳥	再放鳥 (Rt)	再放鳥 (Rp)	新放鳥 +Rt	Rp
キビタキ		2		5		1				15		1	22	2
センダイムシクイ	1			2		1	1			11			15	1
ヤブサメ	6		1	1						3			10	1
クロツグミ	4		1	2	1					2			9	1
クロジ	2	1	3		3	1							6	4
シジュウカラ	4			4	1								9	0
コルリ	3			1						2			6	0
アオジ	2		1		1					1			4	1
ウグイス		1		1						3			5	0
エゾムシクイ	1						2			2			5	0
メジロ		1	1	1									2	1
オオムシクイ	2						1						3	0
コゲラ										2			2	0
ウソ										2			2	0
ハシブトガラ	1			1									2	0
コサメビタキ										1			1	0
アカゲラ										1			1	0
ゴジュウカラ		1											1	0
	26	6	7	18	6	3	4			45		1	105	11

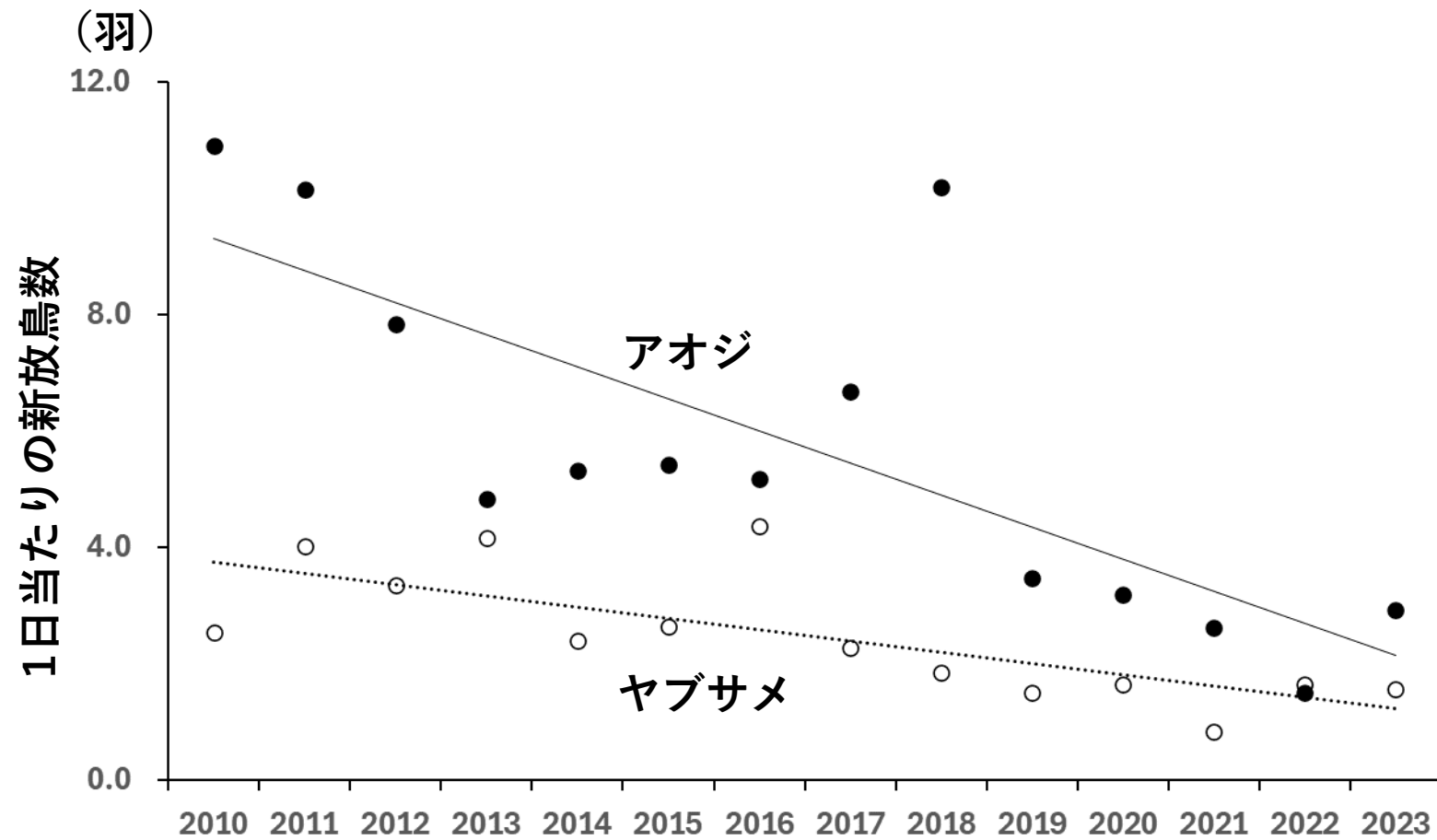


図1. アオジとヤブサメの調査日1日当たりの新放鳥数の年変化 (●：アオジ、○：ヤブサメ)



図2. ウソ（性不明幼鳥）（2AM69405, 2023年6月20日捕獲）

III. 広報活動

北海道地域一般公開

名称： 令和5年度北海道地域一般公開

配信： 令和5年6月24日(土) 9時30分～15時30分

会場： 森林総合研究所北海道支所

共催： 森林総合研究所北海道支所、森林総合研究所林木育種センター北海道育種場、森林整備センター東北北海道整備局札幌水源林整備事務所

概要： 北海道支所、北海道育種場、北海道水源林整備事務所の共催により北海道地域一般公開を実施した。支所実験林内を散策する実験林ツアーをはじめとして、樹木園内を職員がガイドして周遊する樹木園ガイド、その他木工作品を作製する体験を主とした催し物に加え、北海道支所、北海道育種場の研究や事業について紹介するポスター展示や、水源林整備事業を紹介するポスター展示を実施した。

・実験林ツアー

羊ヶ丘実験林内の山火事後に自然再生した天然林(約 110 年生)をスタート地点に針葉樹人工林(アカエゾマツ、エゾマツ、トドマツ)、森林群落展示試験林、ウダイカンバ・ミズナラ人工林を經由する約 1.5 km のコースを引率職員3名が説明しながら散策した。約1時間のツアーを午前中3回、午後2回の計 5 回実施した。

・樹木園ガイド

樹木園内を職員の案内の元、移動しながら植栽された植物等について説明した。午前中1回、午後2回の計3回、30 分程度のガイドを実施した。

・四足歩行ロボットの歩行実演

林業工学研究領域より借り受けた四足歩行ロボットの歩行実演を行った。ロボットについて説明用パネルを使用して説明したのち、障害物を配置した周回コースを歩行する実演を行った。

・丸太切り体験

直径約 30 cm、約 10 cm のシラカンバ丸太を台に固定し、鋸を用いた切断を体験してもらった。また、切断した円盤の重量あてクイズの正解者に景品(スウェーデントーチ)を配布した。

・天然素材を利用した木工品作り(北海道育種場)

木材円板や松かさ等の天然素材をホットメルト接着剤で接着して構成した木工品作りを体験していただいた。

・木のボールペン作り(北海道水源林整備事務所)

木の枝の先を鉛筆のように削り、ボールペンの軸を挿入した木製ボールペンを作製し、作製したボールペンは持ち帰っていただいた。

・研究紹介及び森林講座

標本館に北海道支所及び北海道育種場の研究紹介パネルを展示し、来場者に説明を行った。また、午前中と午後それぞれ 1 回ずつ行った森林講座では、樹木の形成層帯や特徴的な針葉樹

材や広葉樹材の顕微鏡写真を用いて木材の組織について解説した。

国立研究開発法人森林研究・整備機構
令和5年度 北海道地域一般公開プログラム
令和5年6月24日(土) 9:30~15:30
森林総合研究所北海道支所
森林総合研究所林木育種センター北海道育種場
森林整備センター東北北海道整備局北海道水源林整備事務所

◆ 受付
ご来場されましたら、受付にてご記憶をお願いいたします。パンフレットやアンケート用紙をお配りします。

◆ 体験コーナー
北海道支所構内の林内を散策していただく実験林ツアーをはじめ、様々な体験をしていただける催しをご用意しました。

- 実験林ツアー
職員の家内で実験林内を歩きながら、森林や樹木のことなどを説明します。軽いハイキング程度の歩きです。集合場所は、車庫前です。
所要時間は60分程度です。受付にてお申し込みください。受付は14:00までをお願いします。
出発時刻: 1回目 10:00、10:30、11:00、13:30、14:00、14:30
- 樹木園ガイド
樹木園の中をガイド付きで散策します。集合場所は、標本館入口です。
所要時間は40分程度です。
出発時刻: 1回目 10:30、2回目 13:00、3回目 14:30
- 四足歩行ロボット歩行実演
林業での利用が期待されている四足歩行ロボットを歩行させます。
1回目 9:30、2回目 11:00、3回目 13:30、4回目 15:00
- 木のボールペン作り
樹木の枝などを軸としたボールペンを作ります。作ったボールペンはお持ち帰りいただけます。
- 山の天然素材を利用した木工品作り
木のコースター・木の玉等に絵を描いたり、枝や松ぼっくりを接着してオブジェを作成し、着色等の装飾を行います。完成品はお持ち帰りいただけます。
- 丸太切り体験
丸太の切断を体験できるコーナーです。車庫横で行っています。

◆ 研究紹介コーナー

- 研究・事業紹介ポスター
標本館にて、研究内容を解説したポスターを展示しています。標本館内には貴重な材鑑や剥製・標本が展示されています。水源林整備事業については、木のボールペン作り会場に展示しています。
- 森林講座
「顕微鏡で見てみよう 木材の中はどうなっているの」
講師: 藤原 健(産学官民連携推進調整監)
開始時刻: 1回目 10:00、2回目 14:00 講演時間は20分程度です。

令和5年度北海道地域一般公開プログラム

北海道地域研究成果発表会

名称: 令和5年度 北海道地域研究成果発表会

日時: 令和6年2月13日(火) 13:30~16:30

会場: 共済ホール(札幌市中央区北4条西1丁目1)

共催: 森林総合研究所北海道支所、森林総合研究所林木育種センター北海道育種場、森林整備センター東北北海道整備局北海道水源林整備事務所

発表課題:

- (1) 「エゾマツ諸特性の地理的変異 ―地域集団内の多様性―」
生方正俊(北海道育種場 育種研究室 研究専門員)
- (2) 「人工林で生物多様性を守る「保持林業」の実証実験 ―実験の概要―」
尾崎研一(北海道支所 森林生物研究グループ 研究専門員)
- (3) 「保持林業が鳥類保全に果たす役割 ―7年間の調査から―」
山浦悠一(四国支所 生態系変動研究グループ 主任研究員)
- (4) 「保持林業における保持木の生残と下層植生に対する効果」
明石信廣(北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場 保護種苗部長)

(5) 「保持林業が伐採後の甲虫群集に及ぼす影響」

山中 聡(北海道支所 森林生物研究グループ 主任研究員)

(6) 「保持林業の実証実験 ―当初の成果のまとめ―」

尾崎研一(北海道支所 研究専門員)

事業紹介ポスター：森林整備センター北海道水源林整備事務所

概要：北海道支所、北海道育種場、北海道水源林整備事務所の共催により「生物多様性に配慮した北方林の管理に向けて」と題して北海道地域研究成果発表会を実施した。由来地域が異なるエゾマツを一か所に植栽した試験地において球果の特性や成長等を地域間及び地域内で比較した結果や保持林業の実証実験による生物多様性保全の効果について6件の研究成果を発表した。保持林業の実証実験については、皆伐、密度の異なる単木保持、群状保持と異なる処理を行って生物多様性を調査した結果から、鳥類、甲虫類、下層植生の多様性のほか、保持林業のコスト面からの評価についても発表した。

国立研究開発法人森林研究・整備機構
令和5年度北海道地域研究成果発表会



生物多様性に配慮した
北方林の管理に向けて

日時 令和6年2月13日(火)
13:30~16:30 (開場13:00)
会場 共済ホール(札幌市中央区北4条西1丁目1共済ビル6F)



参加費無料

会場で参加される方は事前
申し込みは不要です。会場に
直接お越しください。

発表会はWebでの同時配信
も行います。

会場案内図

国立研究開発法人森林研究・整備機構

森林総合研究所北海道支所
森林総合研究所林木育種センター
北海道育種場

森林整備センター東北海道整備局
北海道水源林整備事務所

プログラム

13:30 開会
吉田 和正 (北海道支所長)

13:35 エゾマツ諸特性の地理的変異 一地域集団内の多様性―
生方 正俊 (北海道育種場育種課 研究専門員)

14:05 人工林で生物多様性を守る「保持林業」の実証実験
―実験の概要―
尾崎 研一 (北海道支所森林生物研究グループ 研究専門員)

14:20 保持林業が鳥類保全に果たす役割 ―7年間の調査から―
山浦 悠一 (四国支所森林生態系変動研究グループ 主任研究員)

14:50 休憩

15:10 保持林業における保持木の生残と下層植生に対する効果
明石 信廣 (北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場
保護種苗部長)

15:40 保持林業が伐採後の甲虫群集に及ぼす影響
山中 聡 (北海道支所森林生物研究グループ 主任研究員)

16:10 保持林業の実証実験 ―当初の成果のまとめ―
尾崎 研一 (北海道支所森林生物研究グループ 研究専門員)

16:25 閉会
門脇 大輔 (北海道育種場長)

Web同時配信の視聴を希望される方は、令和6年2月2日(金)
までに北海道支所地域連携推進室宛
r5seika-ffpri-hkd@go.affrc.go.jp にお名前、ご所属を記入の上、
お申し込みください。

国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林総合研究所北海道支所 地域連携推進室
札幌市豊平区羊ヶ丘7

<https://www.affrc.go.jp/hkd/vent-hkd/r5seikahappyoukai.html>



令和5年度北海道地域研究成果発表会プログラム

IV. 令和5年度研究業績

著者 (森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表標題	発表書誌情報 (書誌名、巻号、頁)
藤本清彦、佐々木達也、伊神裕司、陣川雅樹	2023.04.	林地残材の破砕エネルギー、コストおよび破砕物の粒径分布に及ぼす破砕機種およびスクリーン径の影響	木材工業、78(4):140-145
KAYAMA Masazumi(香山雅純)、KIKUCHI Satoshi(菊地賢)、UEMURA Akira(上村章)、TAKAHASHI Masayoshi(高橋正義)	2023.03.	Growth characteristics of seven willow species distributed in eastern Japan in response to compost application (東日本に分布するヤナギ7種における堆肥添加による成長特性)	Forests、14(3):606
瀬川あすか(三重大学)、山口郷彬(三重大学)、北上雄大(三重大学)、小長谷啓介、村上尚徳(若手県林業技術センター)、成松真樹(若手県林業技術センター)、松田陽介(三重大学)	2023.03.	海岸盛土がクロマツの外生菌根菌群集と酵素活性に及ぼす影響	日本森林学会大会学術講演集、134:232(P-442)
TOBITA Hiroyuki(飛田博順)、UENO Saneyoshi(上野真義)、MIYAMA Takahumi(深山貴文)、IZUTA Takeshi(伊豆田猛・東京農工大学)、MATSUMOTO Asako(松本麻子)、UCHIYAMA Kentaro(内山憲太郎)、YAZAKI Kenichi(矢崎健一)、UEMURA Akira(上村章)、KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)	2023.04.	Growth and photosynthetic responses of cuttings of a Japanese cedar, <i>Cryptomeria japonica</i> , to elevated O3 exposure (スギ挿し木苗の高オゾンに対する成長と光合成の反応)	Acid Rain 2020 Proceedings: 10th International conference on Acid Deposition "The future environment and role of multiple air pollutants", 10:93(S5B-1)
伊東宏樹	2023.04.	モニタリングサイト1000とJaLTERにおける森林動態モニタリング	北方林業、74(2):10-13
UENO Saneyoshi(上野真義)、UCHIYAMA Kentaro(内山憲太郎)、MATSUMOTO Asako(松本麻子)、YAZAKI Kenichi(矢崎健一)、KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)、MIYAMA Takafumi(深山貴文)、IZUTA Takeshi(伊豆田猛・東京農工大学)、TOBITA Hiroyuki(飛田博順)	2023.04.	Transcriptome sequencing of ozone-treated Japanese cedar grown in a free-air O3 exposure system(大気開放型O3曝露システムで生育したオゾン処理スギのトランスクリプトームジークエンシング)	Acid Rain 2020-10th International conference on Acid Deposition、10:232(P-32)
MORI Hirotaka(森紘隆・北海道大学)、QBASE Keisuke(小長谷啓介)、YAJIMA Takashi(矢島崇・北海道大学)、MIYAMOTO Toshizumi(宮本敏澄・北海道大学)、TAMAI Yutaka(玉井裕・北海道大学)	2023.05.	Ectomycorrhizal fungal communities associated with dominant tree species in a subarctic limestone area(亜寒帯の蛇紋岩地域に優占する樹木と共生する外生菌根菌群集)	Asian Soil Research Journal、7(2):34-45
伊藤崇之、中澤昌彦、佐々木達也、上村巧、田中良明、瀧誠志郎、白澤紘明、吉田智佳史、毛綱昌弘、山崎敏彦(高知県立森林技術センター)、山崎真(高知県立森林技術センター)、渡辺直史(高知県立森林技術センター)、千原敬也(島根県農林水産部林業課)	2023.04.	中距離対応型タワーヤードによる集材時の安全性について	森林利用学会誌、38(2):99-106
MANAKA Takuya(真中卓也)、ARAKI G Masatake(荒木真岳・林野庁)、OHASHI Shinta(大橋伸太)、IMAMURA Naohiro(今村直広)、SAKASHITA Wataru(坂下渉)、OGO Sumika(小河澄香)、KOMATSU Masabumi(小松雅史)、SAKATA Tadashi(阪田匡司)、SHINOMIYA Yoshiki(篠宮佳樹)	2023.06.	Radiocesium mobility in different parts of the two major tree species in Fukushima(福島における二つの主要樹種の各部位中の放射性セシウムの動きやすさ)	Scientific Reports、13:9144、 https://doi.org/10.1038/s41598-023-35852-8
HARAYAMA Hisanori(原山尚徳)、TSUYAMA Ikutaro(津山幾太郎)、KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)、YAMADA Takeshi(山田健)、FURUYA Naoyuki(古家直行)、UTSUGI Hajime(宇都木玄)、SASAKI Shozo(佐々木尚三・KITARINラボ)	2023.04.	Effects of Seedling Size, Stock Type, and Mechanical Site Preparation Method on Initial Survival and Growth of Japanese Larch (<i>Larix kaempferi</i>) Seedlings(日本カラマツにおける植栽初期の生残、成長に対する苗サイズ、苗種、機械地拵え法の影響)	Forests、14(4):784
安部久、渡辺憲、児嶋美穂、矢崎健一、倉田洋平(日大)、Peter Kitin(ワシントン大学)	2023.06.	樹種で異なる針葉樹材の近赤外線透過率、非破壊識別への応用期待	森林総合研究所研究成果選集2023(令和5年版)、30-31
MORI Yoshikazu(毛利嘉一・日大)、NAKAJIMA Mio(中島美緒・日大)、ISHIDA Akihiro(石田暁丈・日大)、ITO Noboru(伊藤旭・日大)、KURATA Yohei(倉田洋平・日大)、SHIMIZU Kazumasa(志水一允・日大)、KATAYAMA Yoshihiro(片山義博・日大)、KIGUCHI Makoto(木口実・日大)、YAMASHITA Kana(山下香菜)、FUJIWARA Takeshi(藤原健)、TONOSAKI Mario(外崎真理雄・森林総研非常勤職員)	2023.07.	Changes in hemicellulose structure associated with the transition from earlywood to latewood at juvenile wood in <i>Cryptomeria japonica</i> (スギの未成熟材における早材から晩材への移行に伴うヘミセルロース構造の変化)	WOOD RESEARCH、68(3):413-424
IRIE Takeshi(入江雄・北海道大学)、KAWAMURA Kazuhiro(河村和洋)(筆頭者同等)、YAMANAKA Satoshi(山中聡)、NAKAMURA Futoshi(中村太士・北海道大学)	2023.08.	Effects of plantation intensity on longhorn and carabid beetles in conifer plantations mixed with broadleaved trees in northern Japan(北日本の広葉樹が混交した針葉樹人工林におけるカミキリムシ類・オサムシ類への植栽強度の影響)	Journal of Forest Research、28(4):297-304
SHIMADA Takuya(島田卓哉)、ITO Hiroki(伊東宏樹)、SAITOH Takashi(齊藤隆・北海道大学)、IJJIMA Hayato(飯島勇人)	2023.07.	Effects of acorn masting on individual growth and sexual maturity of the Japanese wood mouse(堅果の豊作がアカネズミの個体成長と性成熟に与える影響)	International Mammalogical Congress, abstract、13:302
KUWAKADO MIYAWAKI Atsuko(桑門温子・九州大学)、SHIMIZU Masaaki(清水正明・九州大学)、KITAMURA Keiko(北村系子)、Qingmin Han(韓慶民)、SATAKE Akiko(佐竹暁子・九州大学)	2023.06.	Latitudinal gradient of molecular phenology unravels the physiological mechanism of bud dormancy(分子フェノロジーの緯度クラインが明らかにする休眠打破メカニズム)	International Conference on Arabidopsis Research、33:PO-044
北村系子	2023.06.	奥尻島ブナ集団の形成時期について	北海道森づくり研究成果発表会(令和5年)、一般発表の部:5
北村系子	2023.07.	奥尻島ブナ林の起源を遡る	北方林業、74(3):28-31
YAMANAKA Takashi(山中高史)、YAMADA Akiyoshi(山田明義・信州大学)、FURUKAWA Hitoshi(古川仁・長野県林業総合センター)、KINOSHITA Akihiko(木下晃彦)、QBASE Keisuke(小長谷啓介)	2023.10.	Advances in the Cultivation of Ectomycorrhizal Mushrooms in Japan(日本における菌根性きのこの栽培に関する最新の成果)	Bioprospects of Macrofungi: Recent Developments(きのこの類の生物学的展望: 最近の発展)(CRC Press、430頁)、3-16
YAZAKI Kenichi(矢崎健一)、KIMURA Fuku S(木村美久・日大院)、Chunhua Zhang(張春花・森林総研非常勤職員)、Delphis F. Levia(デラウェア大)、AKIBA Mitsuteru(秋庭満輝)、SAIKI Shin-Taro(才木真太郎)、ISHIDA Atsushi(石田厚・京大大学生態学研究センター)、KOJIMA Mikiko(小嶋美紀子・理化学研究所)、TAKEBAYASHI Yumiko(竹林裕美子・理化学研究所)、SAKAKIBARA Hitoshi(榊原均・理化学研究所)、MARUYAMA Yutaka(丸山温・日本大学)、OTA Yuko(太田祐子・日本大学)、SAHASHI Norio(佐橋憲生)	2023.08.	Physiological responses of seedlings to the invasion of brown root rot hyphae differ between semi-deciduous <i>Bischofia javanica</i> Blume and evergreen <i>Rhaphiolepis umbellata</i> (Thunb.) Makino(南根腐病菌に侵入された際の生理反応は、半落葉性のアカガビと常緑性のジャリンバイとで異なる)	European Journal of Plant Pathology、 https://doi.org/10.1007/s10658-023-02740-w
山中高史、木下晃彦、中村慎崇、山口宗義、古澤仁美、小長谷啓介、野口享太郎、北出雄生(森林総研PD)、小河澄香	2023.08.	続報「国産トリュフを人工的に発生させることに成功」	JATAFFジャーナル、11(8):33-34

著 者 (森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発 表 年 月	発 表 標 題	発 表 書 誌 情 報 (書誌名、巻号、頁)
伊東宏樹	2023.08.	ハインキ・クロバイ	日本樹木誌2(日本林業調査会、664頁)、413-428
菊地賢、鈴木和次郎(只見町プラセーター)	2023.08.	ユビソヤナギ	日本樹木誌2(日本林業調査会、664頁)、557-571
伊東宏樹、中西敦史	2023.06.	北海道支所実験林内の14成長期経過林分におけるシラカンバの年輪データ	森林総合研究所研究報告、22(2):77-81
EHARA Makoto(江原誠)、MATSUURA Toshiya(松浦俊也)、GONG Hao(筑波大学)、SOKH Heng(カンボジア森林局)、LENG Chivin(カンボジア環境省)、CHOEUNG Hong Narith(カンボジア森林局)、SEM Rida(カンボジア森林局)、NOMURA Hisako(野村久子・九州大学)、TSUYAMA Ikutaro(津山幾太郎)、MATSUI Tetsuya(松井哲哉)、HYAKUMURA Kimihiko(百村帝彦・九州大学)	2023.05.	Where do people vulnerable to deforestation live? Triaging forest conservation interventions for sustainable non-timber forest products(森林減少に脆弱な人々はどこに住んでいるのか? サステイナブルな非木材林産物のための森林保全策の優先順位付け)	Land Use Policy、131:106637
IMAMURA Naohiro(今村直広)、OHTÉ Nobuhito(大手信人・京都大学)、TANAKA Nobuaki(田中延亮・東京大学)	2023.04.	Factors affecting the difference in the input processes of dissolved ions to forest floor between broad-leaved deciduous and coniferous evergreen stands: Through comparison among the sites with different atmospheric deposition conditions(落葉広葉樹と常緑樹の林床への溶存イオン物質の流入プロセスの違いに影響している要因・異なる大気沈着間の比較を通して)	Acid Rain 2020-10th International conference on Acid Deposition、10:219(P-19)
Qiao Wang(東京大学)、IMASU Ryoichi(今須良一・東京大学)、ARAI Yutaka(新井豊・東京大学)、MIZOGUCHI Yasuko(溝口康子)	2023.05.	Diurnal and Seasonal Net Ecosystem Exchange in the Kantô and Chû bu Region of Japan Calculated by BEAMS-diurnal Model(BEAMS日モデルで求められた関東および中部地域の日・季節純生態系交換量)	Japan Geoscience Union Meeting 2023、ACG35-P06
山口岳広	2023.04.	北海道の生立木腐朽菌類の素顔 21 エソカワラタケ	北方林業、74(2):45
山口岳広	2023.07.	北海道の生立木腐朽菌類の素顔 22 ヤケコグタケ	北方林業、74(3):41
TATSUMI Shinichi(辰巳晋一)、Michel Loreau(フランス国立科学センター)	2023.09.	Partitioning the biodiversity effects on productivity into density and size components(生産性への生物多様性効果を密度・サイズ成分へと分解する)	Ecology Letters、26(11):1963-1973
KOBAYASHI Masahiro(小林政広)、TSURITA Tatsuya(釣田竜也)、SHINOMIYA Yoshiki(篠宮佳樹)、ITO H Yuko(伊藤優子)、IMAMURA Naohiro(今村直広)、AIZAWA Shuhei(相澤州平)、OKAMOTO Toru(岡本透)、YOSHINAGA Shuichiro(吉永秀一郎・元森林総研職員)	2023.04.	Twenty-year trends in precipitation and stream water chemistry in a forested watershed in the Kanto region, Japan(関東地方の森林流域における雨水と河流水の水質の20年間の変化)	Acid Rain 2020 Proceedings: 10th International conference on Acid Deposition、10:239(P-39)
小田中温(酪農学園大学)、菊地静香(酪農学園大学)、福島那月(酪農学園大学)、酒井優太(酪農学園大学)、鈴木三賀(酪農学園大学)、伊藤哲治(酪農学園大学)、石橋靖幸、佐藤喜和(酪農学園大学)	2023.09.	分布周縁部における駆除がヒグマ個体群の空間遺伝構造に与える影響	日本哺乳類学会大会プログラム・講演要旨集(2023)、:170(P037)
ISHIBASHI Yasuyuki(石橋靖幸)	2023.09.	Preservation of genetic diversity in a highly fragmented population of the gray-sided vole Myodes rufocanus in an intensive farming region(集約農業地域の高度に分断されたエゾヤチネズミ個体群における遺伝的多様性の維持)	Ecology and Evolution、13(9):e10472
小長谷啓介	2023.09.	菌根を分離源としたセイヨウショウロ菌属の分離培養に適した培地の探索	北方森林学会大会研究発表プログラム、72:P-19
西園朋広、細田和男、齋藤英樹、高橋正義、北原文章、山田祐亮、鄭峻介、志水克人、石橋睦、古家直行、辰巳晋一、小谷英司、松浦俊也、齋藤和彦、田中邦宏、田中真哉、福本桂子、近藤洋史、高橋與明、佐野真琴(農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター)、鷹尾元	2023.09.	平成28～令和2年度に調査した収穫試験地等固定試験地の経年成長データ(収穫試験報告 第27号)	森林総合研究所研究報告、22(3):141-190
桑門温子(九州大学)、清水正明(九州大学)、北村丞子、韓慶民、佐竹暁子(九州大学)	2023.09.	分子フェノロジーの緯度ラインによる休眠打破の生理学的メカニズムの解明	数理生物学会年会要旨(2023)、:5(O3-7)
杉山真樹、横田康裕、天野智将、御田成顕、伊神裕司	2023.10.	国産早生樹の資源状況及び研究動向に関する全国調査結果	産業技術連携推進会議 ナノテクノロジー・材料部会 木質科学分科会 資料集、17:57-58
中西敦史、伊東宏樹、谷村亮(北海道森林管理局森林技術・支援センター)、安田樹生(北海道森林管理局森林技術・支援センター)	2023.09.	皆伐・地持え方法が皆伐地のミズナラ稚樹個体群に与える影響	北方森林学会大会研究発表プログラム、72:O-2
伊吾田宏正(酪農大学)、高橋裕史、松浦友紀子、池田敬(岐阜大学)	2023.09.	ニホンジカの低密度実現・維持に向けた課題 その3	日本哺乳類学会大会プログラム・講演要旨集(2023)、:64(F23)
井上みずき(日本大学)、伊東宏樹、山崎理正(京都大学)、福本繁(平野町総合事務所)、岡本勇貴(日本大学)、甲木勝也(日本大学)、福島慶太郎(福島大学)、境優(国立環境研究所)、阪口翔太(京都大学)、藤本大介(兵庫県立大学)、中川光(土本研究)、石原正恵(京都大学)、高柳敦(京都大学)	2023.10.	芦生冷温帯林における3種類の断片的シカ情報を利用した個体群変動パタンの解析	個体群生態学会プログラム・講演要旨集、39:19
飛田博順、原山尚徳、上村章、香山雅純、齋藤隆実、奥田史郎、矢崎健一	2023.11.	秋施肥がスギコンテナ苗の耐凍性に及ぼす影響	関東森林学会大会講演要旨集、13:10(造林8)
OBASE Keisuke(小長谷啓介)、KITAGAMI Yudai(北上雄大・三重大学)、TANIKAWA Toko(谷川東子・名古屋大学)、CHEN Chien-Fan(台湾林業研究所)、MATSUDA Yosuke(松田陽介・三重大学)	2023.11.	Fungi and bacteria in the rhizosphere of Cryptomeria japonica exhibited different community assembly patterns at regional scales in East Asia.(スギの根圏に生息する菌と細菌は東アジアの地域レベルで異なる群集集合パターンを示した)	Rhizosphere、https://doi.org/10.1016/j.rhisph.2023.1010807
YAMANAKA Satoshi(山中聡)、YAMAURA Yuichi(山浦悠一)、OZAKI Kenichi(尾崎研一)	2023.06.	Examining the bias of pitfall traps with enclosure experiments and removal sampling(囲い込み実験と除去法によりヒットフォールトラップのバイアスを検証)	Insect Conservation and Diversity、16(5):555-565
村松大輔(奈良教育大学)、Edson R. Costa(アマゾナス連邦大学)、依田憲(名古屋大学)、矢部恒晶、Marcelo Gordo(アマゾナス連邦大学)	2023.11.	ナマケモノは、なぜ、どのように怠けているのか? 低コストの体温調節戦略	日本動物行動学会大会プログラム・要旨集、42:80
山口岳広	2023.10.	北海道の生立木腐朽菌類の素顔 23 エソキコブタケ	北方林業、74(4):45
溝口康子	2023.09.	台風攪乱により不均質化した森林の炭素固定回復過程	北方森林学会大会研究発表プログラム、72:P-14
松浦友紀子	2023.11.	捕獲したシカの利用－害獣が資源か？－	山林、1674:19-26
松浦友紀子	2023.10.	暮らしに身近なエゾシカとのおつきあい	一般社団法人エゾシカ協会ニュースレター、55:3-4
松浦友紀子	2023.04.	明治期にエゾシカはそんなに捕獲されていたのか？	一般社団法人エゾシカ協会ニュースレター、54:1-2
池田敬(岐阜大学)、松浦友紀子、高橋裕史、伊吾田宏正(酪農学園大学)、渡邊拓真(一社)エゾシカ協会)	2023.09.	市街地に迫る北海道支笏湖周辺域におけるシカ個体群の動向	日本哺乳類学会大会プログラム・講演要旨集(2023)、:235(P168)
横田康裕、垂水亜紀、天野智将	2023.10.	山陰地方T町における高品質燃料チップ供給体制構築の現状と課題	森林総合研究所九州支所年報(令和5年版)、35:30-33
長倉淳子、古澤仁美、小松雅史、平井敬三、伊藤江利子、橋本徹	2023.11.	長期のカリウム施肥を受けた土壌と樹木の養分バランス－異なる施肥方法と樹種による検討－	関東森林学会大会講演要旨集、13:15(立地1)

著 者 (森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発 表 年 月	発 表 標 題	発 表 書 誌 情 報 (書誌名、巻号、頁)
原山尚徳、津山幾太郎、山田健、北尾光俊、古家直行、矢崎健一、萱井徹人、上村章、佐々木尚三(KITARINラボ)、宇都木玄	2024.03.	機械地拵え地で下刈り1回のみ行なったトドマツ夏植栽苗の8年間の生存と成長	日本森林学会大会学術講演集、135:140(E1)
藤間剛、上田明良、高橋正義、酒井敦、滝久智、澤田佳美、山中聡	2023.06.	インドネシア東カリマンタン州の森林開発圧の変遷：炭素蓄積と生物多様性への影響	日本熱帯生態学会年次大会講演要旨集、33:34(A23)
梅村光俊、平井敬三、齋藤智之	2024.03.	アルカリ抽出によるタケ植物体中含有ケイ素定量法の検討	日本森林学会大会学術講演集、135:256(P1-21)
飛田博順、原山尚徳、上村章、香山雅純、齋藤隆実、矢崎健一、奥田史郎	2024.03.	秋施肥がスギコンテナ苗の耐凍性と翌春の成長に及ぼす影響	日本森林学会大会学術講演集、135:218(PE-48)
西園朋広、小幡進平、齋藤介、高橋正義、齋藤英樹、細田和男、北原文章、小谷英司	2023.11.	2時期の地上レーザースキャナー計測による成長量の把握：72年生ヒノキ人工林の事例	関東森林学会大会講演要旨集、13:4
TATSUMI Shinichi(辰巳晋一)、OHGUE Takayuki(大崩貴之・京都大学)、AZUMA A. Wakana(東若菜・神戸大学)、NISHIZAWA Keita(西澤啓太・東京大学)	2023.10.	Bark traits affect epiphytic bryophyte community assembly in a temperate forest(樹皮形質は着生コケ群集集合に影響する：温帯林における事例研究)	Plant Ecology、224:1089-1095
FUJIMOTO Kiyohiko(藤本清彦)、SASAKI Tastyu(佐々木達也)、IKAMI Yuji(伊神裕司)、JINKAWA Masaki(陣川雅樹)	2023.10.	Effect of wood chipper type and screen mesh size on energy consumption, cost, and chip size distribution during comminution of logging residues(林地残材の破碎エネルギー、コストおよび破碎物の粒径分布に及ぼす破碎機種およびスクリーン径の影響)	Proceedings of the International Wood Machining Seminar、25:29
萱井徹人、内山憲太郎、澤田圭(北海道大学農学研究大学院)、石塚航(北海道立総合研究機構)、北村系子	2024.03.	トドマツの雪害抵抗性に関連する枝形質の地域変異とゲノムワイド関連解析	日本森林学会大会学術講演集、135:247(PH-34)
萱井徹人	2023.11.	秋における亜寒帯性針葉樹苗木の根の耐凍性	根研究集会プログラム、58:0-7
伊藤江利子、菊地賢、古家直行(農水技会)、TITH Bora(カンボジア森林局)	2024.03.	落葉フタバギキ林における無毛型Terminalia alataの複合適応形質	日本生態学会大会講演要旨、71:P2-121
山田健、佐々木達也、古家直行(農林水産技術会議)、小玉哲大((株)フォック)、対馬俊之(北海道総研林業試験場)、渡辺一郎(北海道総研林業試験場)、渡邊祐哉((株)渡邊組)、邊見秀明((有)サンエイ緑化)	2023.11.	自動植付機への植栽位置誘導装置の実装	森林利用学会学術研究発表会講演要旨集、30:12
嶋瀬拓也	2023.06.	特集「変貌する世界の木材マーケットと日本の林業・木材産業」の狙い	森林科学、98:1
嶋瀬拓也	2023.06.	歴史から見通すポストウッドショック時代の国産材戦略	森林科学、98:20-23
嶋瀬拓也	2023.06.	用語の解説	森林科学、98:24
嶋瀬拓也	2023.07.	北海道におけるウッドショックの影響と木材産業の反応－製材業を中心に－	北方林業、74(3):16-19
嶋瀬拓也	2023.10.	道内木材市場レポート・2022年 ウッドショックの余波が続いた北海道木材産業	北方林業、74(4):26-29
中下留美子、鈴木彌生子(農研機構)、亀井利活(北海道総研)、松浦友紀子	2023.05.	シカ肉の生元素安定同位体比－エゾシカ肉ブランド化に向けた基礎データとして	分析化学討論会、83:P2019
設楽拓人、松井哲哉、津山幾太郎、百原新(千葉大学)	2023.12.	種分布モデルを用いた日本におけるグイマツの絶滅に与えた気候要因の推定	第38回日本植生史学会大会日本花粉学会第64回大会合同大会講演要旨集、O-19
津山幾太郎	2023.09.	トドマツの造林適地を予測する	北方森林学会大会研究発表プログラム、72:特別講演(演題2)
MATSUDA Yosuke(松田陽介・三重大学)、KITAGAMI Yudai(北上雄大・三重大学)、TANIKAWA Toko(谷川東子・名古屋大学)、CHEN Chien-Fan(台湾林業研究所)、QBASE Keisuke(小長谷啓介)	2023.10.	Diversity and community structure of culturable root endophytic fungi isolated from Cryptomeria japonica grown at artificial forests along a latitudinal gradient.(緯度勾配に沿った人工林に生育するスギの根に内生する培養可能な菌類の多様性と群集構成)	Abstract of The Asian Mycological Congress 2023、:P365
SEGAWA Asuka(瀬川あすか・三重大学)、YAMAGUCHI Satoaki(山口郷彬・三重大学)、KITAGAMI Yudai(北上雄大・三重大学)、QBASE Keisuke(小長谷啓介)、MURAKAMI Hisanori(村上尚徳・岩手県林業技術センター)、NARIMATSU Masaki(成松真樹・三重大学)、MATSUDA Yosuke(松田陽介・三重大学)	2023.10.	Differences in ectomycorrhizal fungal communities and enzyme activities between survived and planted on coastal embankment Pinus thunbergii.(被災後に生存していたクロマツと新たに盛土に植栽されたクロマツ間における外生菌根菌群集と酵素活性の違いについて)	Abstract of The Asian Mycological Congress 2023、:P368
酒井敦、澤田佳美、伊東宏樹、斉藤正一(山形大学)	2023.10.	ナラ枯れから20年以上経過した山形県の広葉樹林の林分構造	東北森林科学会大会講演要旨集、28:口頭発表1
MORI Taiki(森大喜)、HASHIMOTO Toru(橋本徹)、SAKAI Yoshimi(酒井佳美)	2023.10.	Innovative use of tea bags to investigate the interactive effect of nutrient status and climatic factors on litter decomposition(ティーバッグ法の新たな利用方法：有機物分解速度に対する栄養状態と気候要因の相互作用を調査する新手法)	Journal of Forest Research、28(5):374-379
森大喜、阪田匡司、橋本昌司、橋本徹、森下智陽、石塚成宏、山下尚之、清水貴範、小南裕志、深山貴文、岡本透、高梨聡、稲垣善之	2024.03.	日本の森林土壌におけるメタン・CO2フラックスの時空間変動	日本森林学会大会学術講演集、135:151(I6)
ITO Hiroki(伊東宏樹)、MIURA Satoru(三浦寛)、KOMATSU Masabumi(小松雅史)、KANASASHI Tsutomu(金指努・福島大学)、NAGAKURA Junko(長倉淳子)、HIRAI Keizo(平井敬三)	2023.12.	Variability in radiocesium activity concentration in growing hardwood shoots in Fukushima, Japan(福島の広葉樹当年枝における放射能濃度のばらつき)	PLOS ONE、18(12):e0293166
坂下渉、今村直広、阪田匡司、常岡廉(東京大学)、篠宮佳樹	2024.03.	2022-2023年の葉・外樹皮が樹幹流放射性セシウム濃度を与える影響	日本森林学会大会学術講演集、135:174(PT3-15)
TAGAMI Keiko(田上恵子・量子科学技術研究開発機構)、UCHIDA Shigeo(内田滋夫・量子科学技術研究開発機構)、ISHII Nobuyoshi(石井伸昌・量子科学技術研究開発機構)、HAYASHI Seiji(林誠二・国立環境研究所)、TSUJI Hideki(辻秀樹・国立環境研究所)、HASHIMOTO Shoji(橋本昌司)、KOMATSU Masabumi(小松雅史)、OHASHI Shinta(大橋伸大)、IMAMURA Naohiro(今村直広)、MANAKA Takuya(真中卓也)、SAKASHITA Wataru(坂下渉)、SHINOMIYA Yoshiki(篠宮佳樹)、MIURA Satoru(三浦寛)	2023.09.	River catchments in the Fukushima area-System conceptualization using catchment and ecosystem data - (福島地域の河川流域：流域と生態系データを用いた系の概念化)	IAEA MEREIA Workshop 2023、1-9
ISHIBASHI Yasuyuki(石橋靖幸)、SAITOH Takashi(齊藤隆・北海道大学)	2023.12.	Parentage of 920 gray-sided voles (Myodes rufocanus) born in a 3-ha outdoor enclosure between September 1992 and May 1994(1992年9月-1994年5月の間に3ha野外実験柵内で生まれたエゾヤナギズミ920頭の出自)	Ecological Research、39(2):250-254、DOI: 10.1111/1440-1703.12431
小長谷啓介	2023.12.	異なる種類の寒天培地土における日本産セイウシヨウ口菌属の菌糸成長	森林総合研究所研究報告、22(4):205-207
小長谷啓介	2024.02.	本の紹介 もっと菌根の世界－知られざる根圏のパートナーシップ(書評)	森林技術、982:34-35
黄文倩(東京大学)、梅林利弘(秋田県立大学)、楠本大(東京大学)、矢崎健一、山岸松平、種子田春彦(東京大学)、渡辺敦史(九州大学)、清水文一(東洋大学)、福田健二(東京大学)	2023.12.	明条件と暗黒条件でのマツ材線虫病の通水阻害の進展	樹木医学会大会講演要旨集、28:P-O2
永井智(兵庫農林水技総センター)、矢崎健一、内海泰弘(九州大学)	2023.11.	スギ樹幹内の個々の円錐成長層における心材化の過程	樹木年輪研究会・木質文化財研究会合同例会講演会・研究発表要旨集(2023)、:23

著 者 (森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発 表 年 月	発 表 標 題	発 表 書 誌 情 報 (書誌名、巻号、頁)
KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)、HARAYAMA Hisanori(原山尚徳)、FURUYA Naoyuki(古家直行)、AGATHOKLEOUS Evgenios(エフゲニオスアガトクレウス・南京信息工程大学)、ISHIBASHI Satoshi(石橋聡)	2023.08.	Regeneration of forest floor-grown seedlings of Sakhalin fir can be promoted through shading by shelter trees(保残木の日陰によってトマツ前生稚樹の更新は促進される)	Journal of Forest Research, 29(1):54-61
上田明良	2023.11.	Competitive exclusion of a burying beetle by mongoose(マングースによるシデムシの競争排除)	Biological Invasions, doi.org/10.1007/s10530-023-03195-0
NAKA Minagi(仲美皿・横浜国立大学)、MASUMOTO Shota(増本翔太・筑波大学)、NISHIZAWA Keita(西澤啓太・東京大学)、MATSUOKA Shunsuke(松岡俊将・京都大学)、TATSUMI Shinichi(辰巳晋一)、KOBAYASHI Yuta(小林勇太・横浜国立大学)、SUZUKI F. Kureha(鈴木紅葉・東京大学)、Xinyu Xu(東京大学)、KAWAKAMI Tomoya(河上晋也・北海道大学)、KATAYAMA Noboru(片山昇・小樽商科大学)、KOBAYASHI Makoto(小林真・北海道大学)、OKADA Kei-ichi(岡田慶一・東京農業大学)、UCHIDA Masaki(内田雅己・国立極地研究所)、TAKAGI Kentaro(高木健太郎・北海道大学)、MORI S. Akira(森章・東京大学)	2023.12.	Long-term consequences on soil fungal community structure: Monoculture planting and natural regeneration(土壌真菌群集構造への長期的影響:単一植栽と天然更新)	Environmental Management, Doi:10.1007/s00267-023-01917-7
KOBAYASHI Takuya(小林卓也)、OGURO Michio(小黒芳生)、TAKI Hisatomo(滝久智)、KUROKAWA Hiroko(黒川藍子)	2023.12.	Decomposability of leaf and wood litter are not correlated across species: Effects of litter traits on decomposition in field and laboratory conditions(落葉と木質リターの分解性は種間で相関しない:野外および実験室条件下での分解に対するリターの形質の影響)	Oikos, 2023:e10045, DOI:10.1111/oik.10045
小林卓也、上田明良、滝久智、逢沢峰昭(宇都宮大学)、伊藤昌明(青森県産業技術センター)、中村克典、磯野昌弘、尾崎研一	2024.03.	東日本におけるカシノナガキクミシの集団遺伝構造	日本森林学会大会学術講演集、135:286(PL-23)
IMAMURA Naohiro(今村直広)、OHE Nobuhito(大手信人・京都大学)、TANAKA Nobuaki(田中延亮・東京大学)	2023.12.	Factors influencing the difference in dissolved ion inputs to the forest floor between deciduous and coniferous stands: Comparison under high and low atmospheric deposition conditions.(落葉広葉樹と常緑針葉樹の林床への溶存イオン物質流入の違いに影響している要因:大気沈着量の多寡環境下の比較を通して)	Environmental Monitoring and Assessment, 196:1
池田敬(岐阜大学)、松浦友紀子、高橋裕史、伊吾田宏正(酪農学園大学)、渡邊拓真(エソシカ協会)	2023.12.	禁猟に伴いシカの日周活動は変化するのか！?	「野生生物と社会」学会大会プログラム・講演要旨集、28:P-09
山浦歩(北海道大学)、浦田剛(占冠村)、松浦友紀子、早川徹(北海道大学)、玖村朗人(北海道大学)、河合正人(北海道大学)、近藤誠司(北海道大学)、若松純一(北海道大学)	2023.12.	様々な日数での骨盤懸吊が野生エゾシカ肉のかたさに及ぼす影響	北海道畜産草地学会大会要旨集、12:21
UCHIYAMA Kentaro(内山憲太郎)、FUJII Sayaka(藤井沙耶花・筑波大学)、TSUYAMA Ikutaro(津山幾太郎)、TANAKA Nobuyuki(田中信行・ENVIT)、SUZUKI Setsuko(鈴木節子)、KIMURA k. Megumi(木村恵・秋田県立大学)、SUYAMA Yoshihisa(陶山佳久・東北大学)、TSUMURA Yoshihiko(津村義彦・筑波大学)	2023.09.	Range shift and introgression of three Japanese Abies species: insights from population genetic data and species distribution modelling(日本産モミ属3種の分布域シフトと浸透交雑:ゲノムデータと種分布モデリングによる解析)	Tree Genetics & Genomes, 19(5):41
初山寛樹、熊谷朝臣(東京大学)、清水寛範、阿部俊夫、壁谷直記、久保田多余子、黒川潮、澤野真治、玉井幸治、細田育広	2024.03.	森林理水試験地に対するTOPMODEL型タンクモデルの適用	日本森林学会大会学術講演集、135:270(PJ-43)
今村直広、伊東康人(兵庫県立農林水産技術総合センター)、福島慶太郎(福島大学)	2024.01.	ナラ枯れ集団枯損による溪流水の硝酸態窒素濃度への影響	北方林業、75(1):30-33
今村直広、大橋伸太、坂下渉、真中卓也、大前芳美(森林総研PD)、篠宮佳樹	2024.03.	安定同位体Csを用いたコナラとスギの土壌からの放射性Cs吸収深度の推定	日本森林学会大会学術講演集、135:113(T3-2)
平井敬三、Marod Dokrak(カセサート大学)、齋藤智之、梅村光俊、中静透、高橋正通(国際緑化推進センター)、田中浩(国際緑化推進センター)	2024.03.	タイ西部の熱帯季節林での森林動態と物質循環の長期観測	日本森林学会大会学術講演集、135:150(13)
菅井徹人	2023.12.	亜寒帯針葉樹の地下部における越冬戦略の分子機構及び自然変異	先進ゲノム解析研究推進プラットフォーム拡大班会議、PL-59
菅井徹人	2023.12.	木を植えるときの苗木って何?	(根っこのふしぎな世界)くらしと根っこはつながっている?(文研出版、48頁)、:30-31
関園	2024.03.	エゾマツの樹冠上部における、球果生産が葉群の拡大に及ぼす影響について	日本生態学会大会講演要旨、71:P2-151
山口浩和、佐々木達也、猪俣雄太、中田知沙、上月康博(エルヴェアポ合同会社)、茅根幸人(茨城県森林組合連合会)、櫛田行宏(茨城県森林組合連合会)	2024.01.	電動クローラ型1輪車の開発と植栽作業への導入効果	森林利用学会誌、39(1):5-13
佐々木達也、古家直行(農林水産技術会議事務局)、渡辺一郎(北海道立総合研究機構林業試験場)、山田健、小玉哲大((株)フォテ)、渡邊祐哉((株)渡邊組)	2024.03.	GNSSを利用した苗木の植付け位置への誘導精度	日本森林学会大会学術講演集、135:279(PK-22)
高橋正義、香山雅純、原山尚徳、山田毅、菊池賢、石原誠、佐山勝彦、滝久智、佐々木達也、吉田智佳史、山田健、北原文章、鄭俊介、早船真智	2024.03.	ヤナギ超短伐期施業を用いた木質バイオマス生産の社会実装における課題	日本森林学会大会学術講演集、135:132(D3)
Aleksandr Nogovitsyn(北海道大学)、Ruslan Shakhmatov(北海道大学)、MOROZUMI Tomoki(両角友樹・国立環境研究所)、TEL Shunsuke(鄭峻介)、MIYAMOTO Yumiko(宮本由美子・信州大学)、NAGAI Shin(永井信・海洋研究開発機構)、Trofim C. Maximov(ロシア科学アカデミー寒冷圏生物学研究所)、SUGIMOTO Atsuko(杉本敦子・北海道大学)	2023.08.	Historical variation in normalized difference vegetation index compared with soil moisture at a taiga forest ecosystem in northeastern Siberia(シベリア北東部のタイガ林における過去の衛星植生指数変動と土壌水分環境の比較)	Biogeosciences, 20(15):3185-3201
Maochang Liang(長江大学)、SUGIMOTO Atsuko(杉本敦子・北海道大学)、TEL Shunsuke(鄭峻介)、TAKANO Shinya(鷹野真也・総合地球環境学研究所)、MOROZUMI Tomoki(両角友樹・国立環境研究所)、SHINGUBARA Ryo(新宮原諒・農薬・食品産業技術総合研究機構)、MURASE Jun(村瀬潤・名古屋大学)、Trofim C. Maximov(ロシア科学アカデミー寒冷圏生物学研究所)	2023.09.	Arctic Plant Responses to Summer Climates and Flooding Events: a Study of Carbon and Nitrogen related Larch Growth and Ecosystem Parameters in Northeastern Siberia(夏季の気象環境および洪水に対する北極圏植物の応答:シベリア北東部における炭素・窒素循環に関連したカラマツ成長・生態系パラメータに関する研究)	Journal of Geophysical Research - Biogeosciences, 128(10):e2022JG007135

著者 (森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表標題	発表書誌情報 (書誌名、巻号、頁)
TEI Shunsuke(鄭峻介)、Darshana Athukorala(元森林総研非常勤職員)、Dmitry Schepaschenko(スカチエフ森林研究所)、Liudmila Mukhortova(スカチエフ森林研究所)、Sergey Farber(スカチエフ森林研究所)、Leonid Krivobokov(スカチエフ森林研究所)、Nastassia Sokolova(スカチエフ森林研究所)、Ekaterina Tyutkova(スカチエフ森林研究所)、Alexsey Martynov(スカチエフ森林研究所)、NAGAI Shin(永井信・海洋研究開発機構)、TAKAO Gen(鷹尾元)	2023.05.	Responses of tree radial growth to climate changes in central Siberia deduced from dendro-ecological approach(年輪生態学的手法による中央シベリア樹木の気候変動応答推定)	日本地球惑星科学連合大会(2023)、ACG46-P12
平野悠一郎、天野智将、都築伸行	2024.03.	森林路網における野外スポーツ利用の特徴と課題	林業経済研究、70(1):34-50
大前芳美(森林総研PD)、坂下渉、阪田匡司、今村直広、三浦寛、赤間亮夫(元森林総研職員)、篠宮佳樹	2024.03.	事故後5年目の落葉除去がスギ材の放射性セシウム濃度に及ぼす影響	日本森林学会大会学術講演集、135:171(PT3-3)
黄文倩(東京大学)、梅林弘弘(秋田県立大学)、楠本大(東京大学)、矢崎健二、山岸松平、種子田春彦(東京大学)、渡辺敦史(九州大学)、清水文一(東洋大学)、福田健二(東京大学)	2024.03.	材線虫病感染における壁孔の病変	日本森林学会大会学術講演集、135:234(PG-17)
WATANABE Yoko(渡邊陽子・北海道大学)、MATSUMI Sawako(松本佐和子・岩手大学)、YAZAKI Kenichi(矢崎健二)	2023.12.	Defensive traits of Fagus crenata leaves after long-term CO2 exposure in free-air CO2 enrichment (FACE) system(FACEによって長期間高CO2処理をしたブナの葉の防御特性)	Journal of Forest Research、29(1):3-10
山口岳広	2024.01.	北海道の生立木腐朽菌類の素顔 24 ニセカイメンタケ	北方林業、75(1):45
山口岳広	2024.03.	モミサルノコシカケを接種したトドマツの腐朽れと子実体発生に影響する要因	日本森林学会大会学術講演集、135:295(PM-29)
香川聡、大橋伸太、鄭峻介、鈴木春花	2024.03.	違法伐採対策のためのパナマ産チーク材産地判別のための予備研究	日本木材学会大会研究発表要旨集、74:A14-P-03
杉山真樹、天野智将、横田康裕、御田成顕	2024.03.	家具製造における広葉樹材需要者・供給者を対象としたセンダング板材の品質評価試験	日本木材学会大会研究発表要旨集、74:Y13-03-1515
SAKASHITA Wataru(坂下渉)、IMAMURA Naohiro(今村直広)、SAKATA Tadashi(阪田匡司)、TSUNEOKA Ren(常岡廉・東京大学)、SHINOMIYA Yoshiki(篠宮佳樹)	2024.01.	A pilot study of radiocesium activity concentration in the stemflow of deciduous broad-leaved trees: Its relationship with leaves and outer bark as of 2022-2023(落葉広葉樹の樹幹流の放射性セシウム濃度の予備試験: 2022-2023年現在の葉および外樹皮との関係)	Journal of Environmental Radioactivity、273:107385
橋本徹、梅村光俊、今村直広、伊藤江利子、長倉淳子	2023.09.	トドマツ、エゾマツ、アカエゾマツ、ウダイカンバ人工林の樹高成長に対する長期連年施肥の影響	日本森林学会大会研究発表プログラム、72:P-10
橋本徹、橋本昌司、阪田匡司、森大喜	2024.03.	北海道の落葉広葉樹二次林における積雪期のメタンフラックス	日本生態学会大会講演要旨、71:P2-178
山口宗義、秋庭満輝、佐藤憲生、矢崎健二	2023.11.	樹病羅病木内の病害菌特異的定量における樹種による定量阻害	関東森林学会大会講演要旨集、13:28(樹病1)
伊藤江利子、橋本徹、相澤州平、長倉淳子	2023.09.	連年施肥を受けたトドマツ・エゾマツ・アカエゾマツ壮齢林における堆積有機物の炭素窒素特性について	北方森林学会大会研究発表プログラム、72:P-18
James Raymond Peter WORTH(ワース ジェームズ)、KIKUCHI Satoshi(菊地賢)、KANETANI Seichi(金谷整一)、TAKAHASHI Daiki(高橋大樹・東北大学)、AIZAWA Mineaki(逢沢峰昭・宇都宮大学)、Elena A. Marchuk(Russian Academy of Sciences)、Hyeok Jae Choi(Changwon National University)、Maria A. Polezhaeva(Russian Academy of Sciences)、Viktor V. Sheiko(Russian Academy of Sciences)、UENO Saneyoshi(上野真義)	2023.12.	Chloroplast genome-based genetic resources for Japan's threatened subalpine forests via genome skimming(ゲノムスキミングによる日本の脅かされる亜高山帯林の葉緑体ゲノム遺伝資源化)	bioRxiv、https://doi.org/10.1101/2023.12.03.569577
伊藤江利子、橋本徹、相澤州平、長倉淳子	2024.02.	連年施肥を受けたトドマツ・エゾマツ・アカエゾマツ壮齢林における堆積有機物の炭素窒素特性について	北方森林研究、72:45-53
佐々木達也	2024.01.	GNSSを活用した植栽位置ナビゲーションシステムの紹介	北の森だより、30:4-5
中西敦史、伊東宏樹、谷村亮(北海道森林管理局森林技術・支援センター)、安田樹生(北海道森林管理局森林技術・支援センター)、橋口稜世(北海道森林管理局)	2024.02.	地拵え方法が皆伐地のミズナラ稚樹個体群に与える影響	北方森林研究、72:11-14
天野智将、杉山真樹、横田康裕、御田成顕	2024.03.	家具用国産広葉樹材供給拡大への条件解明－流通規格の必要性	日本森林学会大会学術講演集、135:121(A20)
天野智将	2024.01.	小規模熱電併給(CHP)装置の普及に向けて	北の森だより、30:6-7
溝口康子	2024.02.	台風攪乱により不均質化した森林の樹木成長回復過程	北方森林研究、72:37-38
大橋伸太、黒田克史、安部久、香川聡、杉山真樹、鈴木養樹、眞中卓也、橋本昌司、小松雅史、坂下渉、三浦寛、阪田匡司、篠宮佳樹、高野勉、平井敬二、今村直広、藤原健、金子真司	2023.06.	原発事故後10年間の森林土壌・木材中の放射性セシウムの動きを解明	森林総合研究所研究成果選集2023(令和5年版)、14-15
山口岳広	2024.02.	北米産タモ類(ピロードネリコ・アメリカトネリコ)におけるAsh diebackの発生実態:札幌羊ヶ丘における事例	北方森林研究、72:39-43
橋本徹、梅村光俊、今村直広、伊藤江利子、長倉淳子	2024.02.	トドマツ、エゾマツ、アカエゾマツ、ウダイカンバ人工林の樹高成長に対する長期連年施肥の影響	北方森林研究、72:29-32
OZAKI Kenichi(尾崎研一)、SAYAMA Katsuhiko(佐山勝彦)、SANO Masakazu(佐野正和・農業・食品産業技術総合研究機構)	2023.09.	Importance of large-diameter conifer snags for saproxylic beetle (Cerambycidae) assemblages in old-growth remnants in Japan(原生林における大径針葉樹立枯木のカミキリムシ類にとっての重要性)	Journal of Forest Research、29(2):112-122
坂神たかね(ホクサン(株))、尾崎研一	2023.06.	トドマツオオアブラムシの生態と防除	森林保護、358:6-8

著 者 (森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発 表 年 月	発 表 標 題	発 表 書 誌 情 報 (書誌名、巻号、頁)
KOMINAMI Yuji(小南裕志)、HIRATA Akiko(平田晶子)、KATSUSHIMA Takafumi(勝島隆史)、KITAMURA Kenzo(北村兼三)、MATSUI Tetsuya(松井哲哉)、MIYAMA Takafumi(深山貴文)、 MIZOGUCHI Yasuko(溝口康子) 、MORISHITA Tomoaki(森下智陽)、SHIMIZU Takanori(清水貴範)、TAKANASHI Satoru(高梨聡)、YASUDA Yukio(安田幸生)、YOSHIFUJI Natsuko(吉藤奈津子)、HIRATA Ryuichi(平田竜一・国立環境研究所)、TAKAHASHI Yoshiyuki(高橋善幸・国立環境研究所)、ISHIDOYA Shigeyuki(石戸谷重之・産業技術総合研究所)、KAMEZAKI Kazuki(亀崎和輝・産業技術総合研究所)、MAEDA Takahisa(前田高尚・産業技術総合研究所)、MURAYAMA Shohei(村山昌平・産業技術総合研究所)、SAITOH M. Taku(齋藤拓・岐阜大学)、FUKASAWA Yu(深澤遊・東北大学)、TAKAGI Masahiro(高木正博・宮崎大学)、SUZUKI Satoshi(鈴木智之・東京大学)、TAKEMOTO Shuhei(竹本周平・東京大学)	2023.04.	New scheme for estimation of spatio-temporal forest Carbon budget in Japan(日本の森林の炭素収支の時間変動を評価する新しい枠組み)	Abstract of A3 Foresight Program 2023 International Workshop - Study on ecosystem GHGs exchange and its response to climate change in Northeast Asia,21
KOMINAMI Yuji(小南裕志)、HIRATA Akiko(平田晶子)、IWASAKI kenta(岩崎健太)、KATSUSHIMA Takafumi(勝島隆史)、KITAMURA Kenzo(北村兼三)、MATSUI Tetsuya(松井哲哉)、MIYAMA Takafumi(深山貴文)、 MIZOGUCHI Yasuko(溝口康子) 、MORISHITA Tomoaki(森下智陽)、SHIMIZU Takanori(清水貴範)、TAKANASHI Satoru(高梨聡)、YASUDA Yukio(安田幸生)、YOSHIFUJI Natsuko(吉藤奈津子)、HIRATA Ryuichi(平田竜一・国立環境研究所)、TAKAHASHI Yoshiyuki(高橋善幸・国立環境研究所)、ISHIDOYA Shigeyuki(石戸谷重之・産業技術総合研究所)、KAMEZAKI Kazuki(亀崎和輝・産業技術総合研究所)、MAEDA Takahisa(前田高尚・産業技術総合研究所)、MURAYAMA Shohei(村山昌平・産業技術総合研究所)、SAITOH M. Taku(齋藤拓・岐阜大学)	2023.11.	An approach to estimate forest NEP including ecosystem disturbances using long-term flux observations in Japan(長期フラックスデータを用いた森林攪乱を含む日本の森林のNEP評価)	AsiaFlux Conference 2023 Program Book. :91
天野智将	2024.02.	2023年度東日本林業経済研究会シンポジウム、地域に応じた広葉樹林の利用、開催趣旨	林業経済、76(11):23
佐藤弘和(北海道立総合研究機構林業試験場)、 橋本徹 、山田健、佐々木尚三、岩崎健太、 津山幾太郎 、倉本恵生	2023.04.	森林作業道における作設後4年までの土壌物理性の経年変化	日本森林学会誌、105(4):110-117
小長谷啓介	2024.02.	菌根を分離源としたセイヨウシヨウロ属菌の分離培養に適した培地の探索	北方森林研究、72:55-56
嶋瀬拓也	2024.01.	木材需給をめぐる最近の動きと今後の見通し	北の森だより、30:8-9
嶋瀬拓也	2024.02.	ウッドショック前後の北海道における広葉樹銘木市場の動向	北方森林研究、72:57-60
嶋瀬拓也	2024.02.	広葉樹材マーケットの現在	山林、1677:2-9
嶋瀬拓也	2024.02.	第2報告 広葉樹材マーケットの現在	林業経済、76(11):25-26
根本和明(日本大学)、鈴木和馬(日本大学)、上村真由子(日本大学)、酒井佳美、 橋本徹 、野口享太郎、徳地直子(京都大学)、 鶴川信 (鹿児島大学)	2024.03.	広葉樹木質リターの初期分解過程における各種要因の影響	日本生態学会大会講演要旨、71:P1-246
上田明良 、 小林卓也	2024.01.	センチコガネとアーバスキュラー菌根菌の関係についての予備的調査	北海道応用動物・昆虫研究発表会講演要旨集(令和5年度)、:4
上田明良 、 伊東宏樹 、Dhian Dwibadra(インドネシア研究・革新庁)、Sih Kahono(インドネシア研究・革新庁)、Titis Hutama Syah(東クタイ農科大学)、高橋正義	2024.03.	衛星画像からの指数を用いた熱帯地域の糞虫類多様性の地図化	日本昆虫学会第84回大会・第68回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨集、116(PG01-45)
飛田博順、原山尚徳、上村章、香山雅純、齋藤隆実、 矢崎健一 、奥田史郎	2024.03.	秋施肥がスギコンテナ苗の耐凍性に及ぼす影響	関東森林研究、75:33-36
OHMAE Yoshimi(大前芳美・森林総研PD)、SAKASHITA Wataru(坂下渉)、SAKATA Tadashi(坂田匡司)、 IMAMURA Naohiro(今村直広) 、MIURA Satoru(三浦寛)、AKAMA Akio(赤間晃夫・森林総研非常勤職員)、SHINOMIYA Yoshiki(篠宮佳樹)	2024.01.	Effect of litter removal five years after the Fukushima accident on 137Cs uptake by Japanese cedar(福島事故後5年目の落葉除去がスギのセシウム137吸収に及ぼす影響)	Journal of Environmental Radioactivity、273:107390
北村系子 、松井哲也、並川寛司(北海道教育大学)、津田吉晃(筑波大学)、小林誠(十日町市立里山科学館)	2023.06.	最終氷期を生き延びた奥尻島のフナ林	森林総合研究所研究成果選集2023(令和5年版)、8-9
石橋聡	2023.04.	北海道国有林における天然林長期モニタリング	北方林業、74(2):18-20
佐々木達也	2024.01.	実証事業「北欧をモデルにした北海道十勝型機械化林業経営」におけるGNSSの利用	森林林業中央研修会研修資料(令和5年度)、36-38

V. 資料

1. 会議

会 議 名	開 催 日	主 催	開 催 場 所
機構会議	5.5.25	森林総合研究所 総合調整室	森林総合研究所
北海道支所運営連絡会	月1回	北海道支所	北海道支所
北海道支所運営会議	月1回	北海道支所	北海道支所
総務課長等会議	5.11.27～ 11.28	森林総合研究所 総務部	森林総合研究所
企画連絡会議	5.11.17	森林総合研究所 企画部	森林総合研究所 (オンライン含む)
北海道支所業務報告会	5.12.4	北海道支所	北海道支所 (オンライン含む)
北海道地域評議会	6.2.22	北海道支所	北海道支所 (オンライン含む)
機構評議会	5.11.16	森林総合研究所 企画部	森林総合研究所
研究推進評価会議	6.2.29	森林総合研究所 総合調整室	森林総合研究所
研究企画・運営会議	6.3.1	森林総合研究所 総合調整室	森林総合研究所

(林業研究開発推進ブロック会議)

林業研究・技術開発推進ブロック会議(北海道ブロック)	5.10.3		北海道立道民活動センター (かでる2・7)
----------------------------	--------	--	--------------------------

(林業試験研究機関連絡協議会)

北海道林業林産試験研究機関連絡協議会情報連絡部会	5.7.14	北海道支所	北海道支所 (オンライン含む)
北海道林業林産試験研究機関連絡協議会研究専門部会	5.8.10	北海道支所	北海道支所
北海道林業林産試験研究機関連絡協議会総会	5.9.1	道総研 林産試験場	道総研林産試験場 (オンライン含む)

(推進会議及びプロジェクト関連会議)

なし			
----	--	--	--

(北海道国有林森林・林業技術協議会)

北海道国有林森林・林業技術協議会	5.10.17	北海道森林管理局	空知森林管理署 2 513林班 (夕張郡栗山町滝下)
------------------	---------	----------	----------------------------------

2. 諸行事

年 月 日	行 事
5.6.24	北海道地域一般公開
6.2.13	北海道地域研究成果発表会

3. その他の諸会議

会 議 名	開催日	主 催	出 席 者
なし			

4. 職員の研修・講習

研 修 ・ 講 習 名	期 間	主 催	受 講 者
令和5年度行政手続法・行政不服審査法の運用に関する研修(基礎)(Web配信視聴)	5.5.26	総務省北海道管区行政評価局	吉田 厚
令和5年度情報公開・個人情報保護・公文書管理制度の運用に関する研修(Web配信視聴)	5.8.7	総務省北海道管区行政評価局	吉田 厚
令和5年度札幌法務局管内訟務担当者協議会例会(オンライン参加)	5.10.20	札幌法務局管内訟務担当者協議会	吉田 厚
令和5年度北海道地区女性職員登用推進セミナー(オンライン参加)	5.11.15	人事院北海道事務局	渡邊 謙一
令和5年給与勧告を踏まえた各種人事院規則の一部改正等についての制度説明(オンライン参加)	5.11.28	人事院北海道事務局	吉田 厚
令和5年度情報公開・個人情報保護訴訟に関する実務連絡会(オンライン参加)	5.11.30	札幌法務局	横濱 大輔
令和5年度情報公開・個人情報保護訴訟に関する実務連絡会(オンライン参加)	5.11.30	札幌法務局	吉田 厚
令和5年度評価・監査北海道セミナー(Web配信視聴)	5.12.14	総務省北海道管区行政評価局	吉田 厚
キャリア支援研修20	6.2.13	人事院北海道事務局	山川 祥梧

5. 受託出張(62件)

用務	日程	依頼者	用務先	氏名
令和5年第1回北海道環境審議会地球温暖化部会	5.5.17	北海道	第2水産ビル8A会議室	溝口康子
禁猟がシカの生息数と市街地出没に及ぼす影響の共同調査	5.5.21～5.5.26	岐阜大学応用生物科学部野生動物管理学研究センター	支笏湖畔	松浦友紀子
第1回北海道地区需給情報連絡協議会	5.6.1	林野庁	オンライン参加	嶋瀬拓也
札幌市緑の審議会	5.6.1	札幌市	アパホテル札幌	菊地賢
ISO/TC218国内対策委員会	5.6.6	農林水産消費安全技術センター	オンライン開催	藤原健
第1回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会	5.6.19	北海道森林管理局	北海道森林管理局	天野智将
地かき天然更新についての現地調査、技術指導	5.6.28	住友林業株式会社	紋別市宇津々	橋本徹
香川県の県産木材加工流通促進検討調査に係るヒアリング	5.7.11	香川県	オンライン開催	嶋瀬拓也
カラマツ人工林における広葉樹混交が生物多様性に及ぼす影響調査	5.7.25	道総研林業試験場	町有林(厚真、安平)、三菱マテリアル社有林	山中聡
カラマツ人工林における広葉樹混交が生物多様性に及ぼす影響調査	5.7.26	道総研林業試験場	町有林(厚真、安平)、三菱マテリアル社有林	山中聡
えりも海岸の持続的な発展に向けたあり方に関する検討会	5.7.26～5.7.27	北海道森林土木コンサルタント	えりも国有林	石橋聡
第1回北海道森林審議会	5.8.8	北海道	第二水産ビル	吉田和正
北海道森林審議会林地保全部会現地視察	5.8.24	北海道	北海道軽種馬振興会	吉田和正
第1回木材流通における転換促進支援事業委員会	5.8.8～5.8.9	全国木材組合連合会	永田町ビル6階	嶋瀬拓也
禁猟がシカの生息数と市街地出没に及ぼす影響の共同調査の成果発表打合せ	5.8.28～5.8.30	岐阜大学応用生物科学部野生動物管理学研究センター	岐阜大学	松浦友紀子
第2回北海道環境審議会地球温暖化対策部会	5.8.28	北海道	札幌市内(かでの27、第2水産ビル、道庁)	溝口康子
令和5年度県産木材加工流通促進検討調査事業に係る有識者会議	5.8.23	香川県	オンライン会議	嶋瀬拓也
学生の現地調査指導	5.9.10～5.9.13	酪農学園大学	宮古島	松浦友紀子
第2回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会	5.9.6	北海道森林管理局	北海道森林管理局	天野智将
札幌市緑の審議会	5.9.19	札幌市	ホテルモントレーエーデルホフ札幌	菊地賢
北方森林学会大会での特別講演	5.9.27	北方森林学会	札幌コンベンションセンター	津山幾太郎

5. 受託出張(62件)

用務	日程	依頼者	用務先	氏名
北方森林学会評議員会	5.9.20	北方森林学会	北海道大学	嶋瀬拓也
第1回北海道森林審議会林地保全部会	5.10.4	北海道	かでの2.7	吉田和正
北海道森林管理局技術開発委員会現地検討会	5.10.5	北海道森林管理局	空知森林管理署	佐々木達也
北海道森林管理局技術開発委員会現地検討会	5.10.5	北海道森林管理局	空知森林管理署	藤原健
県産木材加工流通促進検討調査事業に係る第3回有識者会議	5.10.4	香川県	オンライン開催	嶋瀬拓也
生物多様性保全研修の事前調査指導	5.11.1	森林技術総合研修所	八王子、都留市	尾崎研一
生物多様性保全研修の講師	5.11.8～5.11.10	森林技術総合研修所	八王子、都留市	尾崎研一
二国間(日伊)共同研究セミナー	5.10.21～5.10.24	筑波大学	筑波大学菅平高原実験所	北村系子
二国間(日伊)共同研究セミナー	5.10.21～5.10.24	筑波大学	神宮林、筑波大学菅平高原実験所	菅井徹人
第1回路網・作業システム検討ワーキング会合	5.10.31	北海道	第二水産ビル	佐々木達也
第3回北海道環境審議会地球温暖化対策部会	5.11.20	北海道	オンライン参加	溝口康子
令和5年度若手農林水産研究者表彰式出席	5.11.21	農林水産技術会議	東京ビックサイト	今村直広
第1回北海道森林管理局保護林管理委員会	5.11.21	北海道森林管理局	北海道森林管理局	吉田和正
北の森づくり専門学院講師	5.12.8	北の森づくり専門学院	オンライン参加	松浦友紀子
第1回北海道森林管理局技術開発委員会	5.12.12	北海道森林管理局	北海道森林管理局	藤原健
第1回北海道森林管理局技術開発委員会	5.12.12	北海道森林管理局	北海道森林管理局	佐々木達也
令和5年度鳥獣対策優良活動表彰審査委員会出席	5.12.11	農林水産省農村振興局	農林水産省共用第4会議室	松浦友紀子
令和5年度食品加工技術センター人材育成事業 十勝エゾ鹿フォーラムにおける講演	6.1.23	公益財団法人とかち財団	LAND(帯広市西2条南11丁目12番地1天光堂ビル1階)	松浦友紀子
第2回えりも海岸の持続的な発展に向けたあり方検討会	5.12.19	北海道森林土木コンサルタント	北海道森林管理局	石橋聡
第3回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会	5.12.13	北海道森林管理局	北海道森林管理局	天野智将
令和5年度全国森林林業中央研修における「北海道における新しい林業(仮称)」	6.1.12	全国素材生産業協同組合連合会	ホテルメトロポリタンエドモント飯田橋	佐々木達也
第2回北海道地区需給情報連絡協議会事前レク	6.1.12	林野庁	オンライン参加	嶋瀬拓也

5. 受託出張(62件)

用務	日程	依頼者	用務先	氏名
令和5年度北海道立北の森づくり専門 学院木材流通コーディネート講義にお ける木材流通実習指導	6.1.16～6.1.17	森林環境リアライ ズ	北海道立北の森づ くり専門学院	嶋瀬拓也
第2回北海道地区需給情報連絡協議会	6.1.23	林野庁	オンライン参加	嶋瀬拓也
第2回路網・作業システム検討ワーキン グ会合	6.1.23	北海道	第二水産ビル	佐々木達也
第2回北海道森林管理局技術開発委員 会	6.3.13	北海道森林管理局	北海道森林管理局	藤原健
野生動物保全技術実習の講師	6.2.13～6.2.16	酪農学園大学	西興部村	松浦友紀子
第4回北海道森林管理局国有林材供給 調整検討委員会	6.3.7	北海道森林管理局	北海道森林管理局	天野智将
計算木工の応用と期待についてのシン ポジウム講演	6.2.11～6.2.13	はこだて未来大学	はこだて未来大学	嶋瀬拓也
北の国・森林づくり技術交流発表会	6.2.14～6.2.15	北海道森林管理局	北海道大学学術交 流会館	吉田和正
第2回北海道森林審議会林地保全部会	6.2.21	北海道	北海道中小企業会 館	吉田和正
第2回北海道森林管理局保護林管理委 員会	6.2.27	北海道森林管理局	北海道森林管理局	吉田和正
奥尻島ブナ林保護に関する会議	6.2.15	北海道	ポールスター札幌	北村系子
技術士第一次試験委員会総会出席	6.2.21～6.2.22	日本技術士会	市ヶ谷カンファレ ンスホール	佐々木達也
令和5年度「木材流通における転換促 進支援事業」事業報告会出席	6.2.18～6.2.19	全国木材組合連合 会	ビジョンセンター 東京八重洲	嶋瀬拓也
北の森づくり専門学院における木材利 用の外部講師	6.2.26～6.2.27	北海道立北の森づ くり専門学院	北海道立北の森づ くり専門学院	嶋瀬拓也
第2回木材流通における転換促進支援 事業委員会	6.3.3～6.3.4	全国木材組合連合 会	全国木材組合連合 会会議室	嶋瀬拓也
地域管理経営計画懇談会	6.3.12	北海道森林管理局	北海道森林管理局	吉田和正
第2回北海道森林管理局保護林管理委 員会	6.2.27	北海道森林管理局	北海道森林管理局	菊地賢
第2回北海道森林管理局技術開発委員 会	6.3.13	北海道森林管理局	北海道森林管理局	佐々木達也
第3回路網・作業システム検討ワーキン グ	6.3.25	北海道	第二水産ビル	佐々木達也

6. 外国出張(7件)

用 務	日 程	経費負担先	行 先	氏 名
科学研究費助成事業による「特異的な遅延展葉フェノロジーを示す季節性熱帯樹種の適応戦略とその成立条件」における現地調査およびカウンターパートとの打合せ	5.7.30 ~5.8.8	日本学術振興会	カンボジア王国	菊地賢
科学研究費助成事業の国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))による「衛星画像から広大な熱帯林の生物多様性を推定するモデルの開発と多様性情報の地図化」における研究活動の指導, 調査地設定およびカウンターパートとの打合わせ	5.11.11 ~5.12.2	日本学術振興会	インドネシア共和国	上田明良
科学研究費助成事業による「山火事耐性に注目した熱帯季節林のタケ類4種の共存機構」における現地調査、試料採取・調製および研究打合せ	6.1.27 ~6.2.5	日本学術振興会	タイ王国	梅村光俊

7. 研修生の受入

① 受託研修生(0名)

氏 名	所 属	研 修 期 間	研 修 内 容	受 入 担 当
な し				

② 海外研修生(0名)

氏 名	所 属	研 修 期 間	目 的	受 入 担 当
な し				

③ 特別研究員(0名)

氏 名	受 入 機 関	研 究 課 題	受 入 担 当
な し			

④ 外国人特別研究員(日本学術振興会)(0名)

	受 入 機 関	研 究 課 題	受 入 担 当
な し			

8. 来訪者

①支所視察・見学・利用

来訪日	来訪者	人数	目的	担当者
5.4.20	ノルカツキーツ	6	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
5.5.18	ノルカツキーツ	6	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
5.6.15	ノルカツキーツ	6	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
5.7.20	ノルカツキーツ	6	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
5.8.17	ノルカツキーツ	6	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
5.10.19	ノルカツキーツ	6	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
5.11.16	ノルカツキーツ	6	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
5.12.21	ノルカツキーツ	6	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
5.4.21	北海道自由が丘学園月寒スクール	17	小学生の体験学習	地域連携推進室
5.6.7	西岡地区町内会連合会	65	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
5.6.6	福住さつき会	20	ウォーキング	地域連携推進室
5.9.21	野辺地町	8	野辺地町馬門財産区議員先進地視察	地域連携推進室
5.10.26	札幌太陽豊平子ども劇場	10	樹木園散策、標本館見学	地域連携推進室
6.2.15	ノルカツキーツ	10	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
6.3.21	ノルカツキーツ	10	ノルディックウォーキング	地域連携推進室

②実験林利用者

利用期間	利用者	人数	目的
R5.4.1～ R5.4.30	平川浩文	1	雪中で越冬するコウモリに関する調査
R5.4.1～ R5.11.20	川路則友	10	森林性鳥類の繁殖生態調査、鳥類標識調査
R5.4.22～ R5.11.30	東海大学生物学部生物科	3	マダニ類によって運搬される人獣共通感染症の発生、分布、伝播のモニタリング
R5.4.17～ R6.3.29	林木育種センター北海道育種場	4	ヤマナラシ林分の観察・調査及び採穂
R5.6.15～ R5.7.14	鳴門教育大学	2	昆虫類(半翅目・甲虫目等)の採集
R5.7.15～ R5.9.29	秋田県立大学	5	クマイザサの開花調査
R5.8.14～ R5.9.4	平川浩文	1	自動撮影装置による野生生物(哺乳類)の生息状況把握
R5.8.25～ R5.10.31	札幌キノコの会第六支部	15	子囊菌茸・チャワン茸類等の調査
44855	札幌科学技術専門学校	13	専門学校の学生実習の一環としての林分の材積調査実
R4.11.22～ R5.3.31	東海大学生物学部生物科	18	森林性鳥類を対象とする巣箱を用いた繁殖生態調査
R6.3.20～ R6.3.31	平川浩文	2	雪中で越冬するコウモリに関する調査

③標本館来館者数

	一 般	学 生	国	都道府県	林業団体	総研職員	外国	計
4月	25	6		3		4		38
5月	49	32	1					82
6月	49	9				1		59
7月	42	9	1					52
8月	39	14				15		68
9月	21	2				1		24
10月	63	81	1			3	9	157
11月	31	3						34
12月	3							3
1月	6	1						7
2月	4	3						7
3月	26	16						42
合 計	358	176	3	3	0	24	9	573

9. 広報活動

①新聞等

内 容 等	掲載日	社 名
ササ-斉開花のなぞ	5.8.15	北海道新聞
スマート林業特集	5.10.14	北海道新聞

②テレビ放送

内 容 等	放送日	局 名

③定期刊行物

内 容 等	ISSN	発行日	発行部数
令和5年版北海道支所年報	2187-8730	5.3	支所ホームページで公開
北の森だよりVol.30	1882-9627	6.1.31	1,000
令和4年度北海道地域研究成果発表会発表集 ・育種サイクルの短縮に向けたトドマツの早期選抜戦略 ・GNSSを活用した植栽位置ナビゲーションシステムの紹介 ・小規模熱電供給(CHP)装置の普及に向けて ・木材需給をめぐる最近の動きと今後の見通し			

10. 図書刊行物の収数

区 分	和 書			洋 書			合 計
	購 入	寄 贈	計	購 入	寄 贈	計	
単行書	0冊	2冊	2冊	0冊	0冊	0冊	2冊
逐次刊行物	42誌	180誌	222誌	6誌	1誌	7誌	229誌

11.固定試験地・収穫試験地

①固定試験地

区分:A 森林総研主体、A' 森林総研・道局共同、B 道局からの依頼

整理番号	試験地名	研究項目	森林管理署	林小班	樹種	面積(ha)	設定年度	終了予定年度	調査年度	距離(km)	担当研究グループ	区分
札幌 4	苫小牧植生調査試験地	林冠破壊による植生の変化(風害後の遷移)	胆振東部	1301い-3	トドマツ アカエゾマツ	1.67	S32	R16	不定期	97.6	森林育成研究グループ	A
				1463い	エゾマツ ダケカンバ	###						
札幌16	利根別トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	41は	トドマツ	0.90	S36	R23	10年毎	49.6	北方林管理研究グループ	A
札幌17	万字カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	18ろ	カラマツ	1.10	S41	R16	5年毎	75.1	北方林管理研究グループ	A
札幌32	ヤチダモ人工林の構造と生長試験地(3)(4)	長伐期林分情報の整備方式の開発の予測	石狩	41ほ-20	ヤチダモ	1.14	S30	R17	5年毎	29.9	北方林管理研究グループ	A
				41ほ-33	ヤチダモ	1.13	S25					
札幌51	札幌トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	石狩	58ぬ 64た	トドマツ	3.94	S42	R19	不定期	39.4	本所	A
札幌54	空沼天然林施業試験地(1)(2)	トドマツ・エゾマツ天然林の生長予測	石狩	1128は・ い-1・と	トドマツ	2.16	S43	R20	5年毎	24.6	北方林管理研究グループ	A
				1129ほ・ ハ	エゾマツ 広葉樹	0.99	S44					
札幌61	苫小牧広葉樹試験地	落葉広葉樹林の更新	胆振東部	1205い	広葉樹類	###	S50	R11	不定期	80.0	森林育成研究グループ	A'
旭川 2	大雪植生調査試験地	林冠破壊による植生の変化(風害後の遷移)	上川中部	2260ろ 2276い 2290い 2320い ろ	未立木	1.50	S31	R06	不定期	248.4	森林育成研究グループ	A
				2260ろ 2276い 2290い 2320い ろ								
旭川 3	林冠破壊による土壌の変化試験地	森林伐採に伴う設置環境変動と堆積腐植分解との関係	上川中部	2260ろ 2276い 2290い 2320い ろ	未立木	1.50	S31	R06	不定期	248.4	植物土壌系研究グループ	B
旭川 5	雄信内トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	留萌北部	50い	トドマツ	0.56	S38	R17	10年毎	329.4	北方林管理研究グループ	A
旭川11	大雪原生林植物群落保護林調査試験地	原生林の更新動態	上川中部	2254い 2260い	トドマツ アカエゾマツ エゾマツ	2.00	H11	定めず	不定期	248.4	森林育成研究グループ	A
旭川12	士別天然林成長量固定試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	上川北部	2397い	トドマツ エゾマツ	3.26	H13	定めず	5年毎		北方林管理研究グループ	A
旭川13	幾寅天然林成長量固定試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	上川南部	141ろ	トドマツ エゾマツ	4.00	H13	定めず	5年毎		北方林管理研究グループ	A
北見 4	エゾマツ・トドマツ天然林固定標準地	林分成長量の推定及び予測手法に関する研究	網走中部	1041は	エゾマツ トドマツ 広葉樹	2.60	S33	R20	5年毎		北方林管理研究グループ	A
北見 6	丸瀬布カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	網走西部	1108う	カラマツ	1.09	S42	R16	5年毎	266.5	北方林管理研究グループ	A
北見 7	佐呂間トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	網走中部	2090む	トドマツ	4.53	S42	R19	不定期	335.4	本所	A
北見 8	津別天然林成長量固定試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	網走南部	2205ろ	トドマツ エゾマツ	2.64	H15	定めず	5年毎		北方林管理研究グループ	A
帯広 4	ベケレトドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	根釧西部	4077ろ	トドマツ	1.00	S40	R08	10年毎	482.3	北方林管理研究グループ	A
函館 8	函館トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	檜山	5130へ・ と・ち	トドマツ	4.42	S42	R19	不定期	319.3	本所	A

②収穫試験地

整理番号	試験地名	研究項目	森林管理署	林小班	樹種	面積(ha)	設定年度	終了予定年度	調査年度	担当研究グループ	区分
札幌16	利根別トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	41は	トドマツ	0.90	S36	R23	10年毎	北方林管理研究グループ	A
札幌17	万字カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	18ろ	カラマツ	1.10	S41	R16	5年毎	北方林管理研究グループ	A
旭川 5	雄信内トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	留萌北部	50い	トドマツ	0.56	S38	R17	10年毎	北方林管理研究グループ	A
北見 6	丸瀬布カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	網走西部	1108う	カラマツ	1.09	S42	R16	5年毎	北方林管理研究グループ	A
帯広 4	ベケレトドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	根釧西部	4077ろ	トドマツ	1.00	S40	R08	10年毎	北方林管理研究グループ	A

12. 羊ヶ丘実験林の試験林一覧

No.	試験林名	試験項目	林班	樹種	年度	面積 ha	担当
1	針葉樹病害試験林	病害発生情報の収集・解析と突発性病害発生生態の解明	1-に	トドマツ 他	48	0.55	森林生物研究グループ
2	野鳥誘致林	キツツキ類の営巣穴の消失過程の解析及び動態把握	1-ハ	ナナカマド 他	48	0.62	森林生物研究グループ
3	特用樹試験林	成長調査	1-と	キササゲ 他	50	0.61	業務係
4	針・広葉樹造成試験林	成長調査	1-ち	イチイ他	H元	0.50	業務係
5	群落構成試験林	北方系天然林における成長及び更新動態の長期モニタリング	2-は～よ	ハイマツ 他	48	10.43	森林育成研究グループ
6	針葉樹人工林試験林	成長調査	3-に、 5-ハ～ ち、5- ぬ、 6-と	グイマツ 他	48	4.95	業務係
7	針葉樹腐朽病害試験林	立木の腐朽・変色を起こす菌類の生態および宿主との相互作用の解明	3-ほ	カラマツ	H3	0.97	森林生物研究グループ
8	広葉樹人工林試験林	成長調査	3-ハ、 3-ち～る、 4-ろ、 5-り、 7-に	ミズナラ 他	48	6.31	業務係
9	広葉樹人工林試験林	北方林構成樹種の養分の配分・利用特性	3-と	ウダ イカンバ	49	0.94	植物土壌系研究グループ
10	土壌環境長期モニタリング試験林	北方林の立地特性と物質循環モデル	4-ハ	トドマツ他	48	1.62	植物土壌系研究グループ
11	昆虫多様性試験林	昆虫発生情報の収集と解析	4-と	トドマツ他	48	3.21	森林生物研究グループ
12	虫害解析試験林	昆虫発生情報の収集と解析	4-ち	トドマツ他	48	2.00	森林生物研究グループ
13	生態遷移試験林	森林の更新を制御する因子としてのササの動態及びその被覆の影響の評価	5-ろ、 6-ろ、 6-ほ	ヤマナシ他	53	21.19	森林育成研究グループ
14	森林気象試験林	北方系落葉広葉樹林の二酸化炭素動態のモニタリング	5-ろ、 6-い～ ハ、 8- い～ろ	ヤマナシ他	H6	57.13	寒地環境保全研究グループ
15	植栽密度試験林	密度管理技術に基づく長伐期林分の成長・収穫予測の高度化	5-に	アカエゾマツ 他	48	5.77	北方林管理研究グループ
16	鳥獣生態調査試験林	キツツキ類の営巣穴の消失過程の解析及び動態把握	6-い、ハ	シロカンバ 他	H5	14.96	森林生物研究グループ
17	広葉樹用材林施業試験林	天然林における択伐施業計画法の改善	6-は～に	シロカンバ 他	53	6.31	北方林管理研究グループ
18	針広混交林造成試験林	樹種の環境適応性の生理的特性の解明と評価	7-い～ろ	シロカンバ 他	50	14.95	植物土壌系研究グループ
19	ウダイカンバ植栽試験林	成長調査	8-は	ウダ イカンバ	62	1.93	業務係

13. 羊ヶ丘の気象

○試験研究の資料として、昭和48年から北海道支所羊ヶ丘観測露場において、気象観測を実施している。

令和5年度の気象概要は以下のとおりである。

1. 今年度は、平均気温9.1℃で平年より1.5℃高かった。最高気温は8月23日に記録した34.4℃であり、真夏日に相当する30℃を超える日は21日あった。
また最低気温は1月21日に記録した－13.1℃であり、真冬日に相当する最高気温が氷点下の日数は50日であった。
2. 目視による初雪は11月14日で、6年3月までに積雪した雪は、4月7日に積雪ゼロとなった。

令和5年度の羊ヶ丘観測露場における観測値は、次表のとおりである。

令和5年度 気象年報

北緯 42度59分42秒
東経 141度23分26秒
標高 146.5m

1. 気温 (℃)

月	平均	最高平均	最低平均	極値最高	起日時	極値最低	起日時
R5. 4	7.6	12.6	1.8	20.1	30 11:03	-1.8	3 3:37
5	12.2	17.9	6.4	28.3	18 12:59	1.0	12 0:26
6	17.6	21.8	9.6	29.5	27 14:07	6.0	4 2:31
7	22.0	27.1	18.2	33.0	28 13:10	14.1	2 2:31
8	24.8	28.2	21.4	34.4	23 13:28	17.3	29 4:26
9	19.4	23.3	14.0	30.4	18 9:57	9.5	24 3:41
10	11.5	17.2	5.4	24.2	1 11:27	1.0	21 21:32
11	5.0	13.2	-6.4	20.7	3 13:50	-8.7	30 18:04
12	-2.4	6.4	-8.6	10.4	9 13:29	-12.4	18 20:35
R6. 1	-3.6	-0.1	-8.6	5.0	23 12:39	-13.1	21 2:35
2	-3.6	7.1	-8.6	13.5	19 15:36	-12.2	5 23:33
3	-0.9	6.6	-7.3	11.5	29 14:48	-11.6	3 6:15
年	9.1	15.1	3.1	34.4	8/23 13:28	-13.1	1/21 2:35
極値				35.7	1994/8/7 14:10	-22.8	1978/2/17 3:25

2. 降水量 (mm)

3. 積雪 (m)

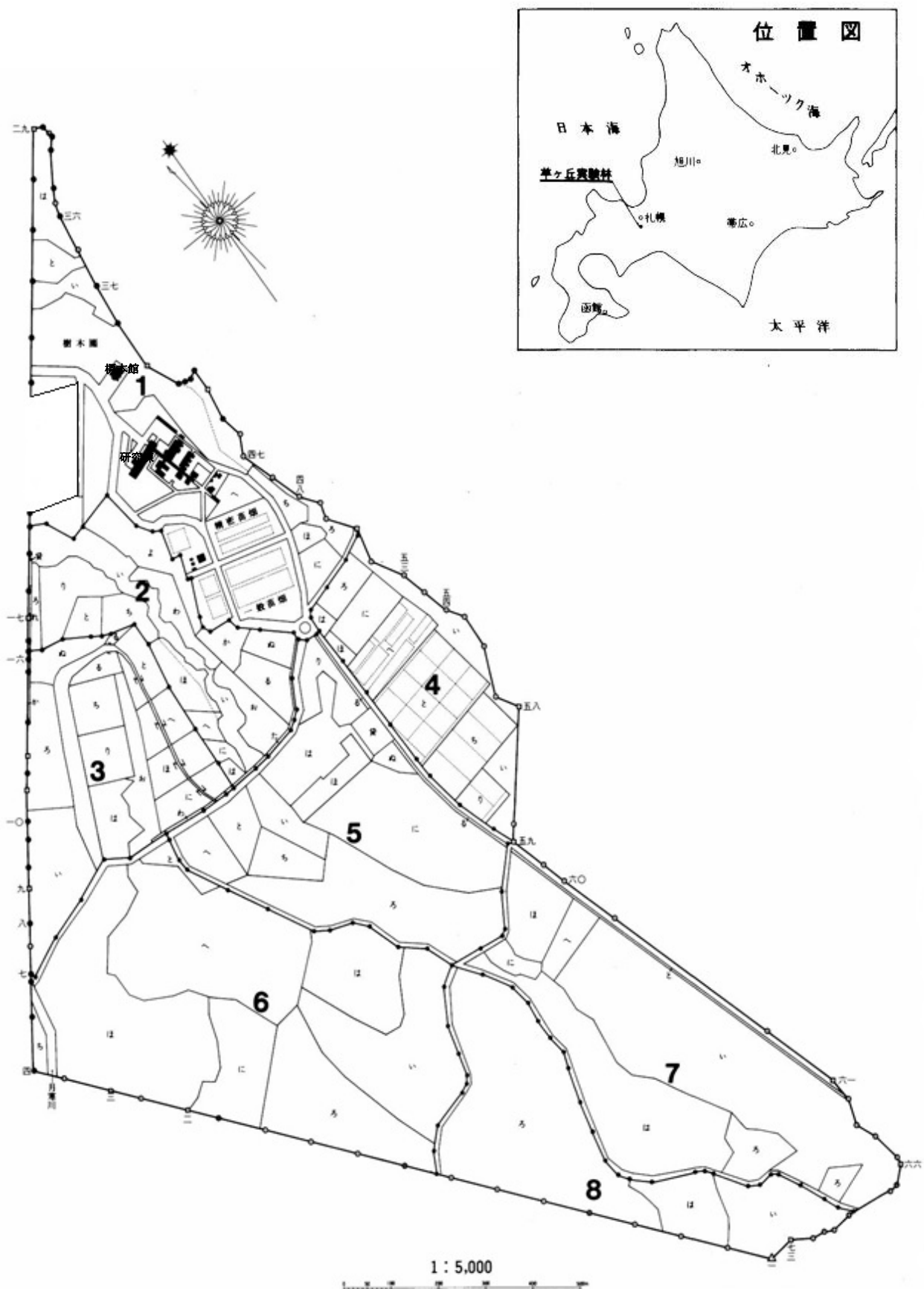
(×:欠測値)

月	総 量	最大日量	起 日	最 大 1時間量	起 日	最大 積雪深	起 日
R5.4	72.0	29.0	16	7.5	16	-	-
5	22.5	8.0	5	3.5	5	-	-
6	120.0	34.5	30	15.5	30	-	-
7	68.0	42.0	15	9.5	11	-	-
8	87.5	17.0	24	9.5	24	-	-
9	213.5	70.5	5	32.0	5	-	-
10	82.5	29.0	5	11.0	5	-	-
11	117.0	59.0	17	9.0	17	0.12	26
12	32.0	8.0	26	3.0	7	0.32	26
R6.1	76.0	9.0	12	3.0	23	0.87	16
2	45.5	13.5	22	3.0	22	1.01	24
3	45.0	10.5	19	2.5	10	0.89	19
年	981.5	70.5	9/5	32.0	9/5	1.01	2/24
最大値の記録							
年降水量		最大日降水量		最大1時間降水量		最大積雪深	
最大	1,490.0 (1981)	220.5		51.0		1.50	
最小	572.0 (2008)	1981/8/23		1979/10/4/3:00		2013/3/11	

4. 風速 (m/sec)

月	平均	最大	風向	起日	最大瞬間	風向	起日
R5.4	1.8	5.7	SSE	6	16.7	S	26
5	1.5	6.4	S	21	14.0	SSE	21
6	1.5	5.7	S	12	14.2	S	12
7	1.0	5.0	S	23	12.0	S	23
8	1.4	5.9	S	17	15.8	SSE	17
9	1.2	4.1	S	8	11.8	NNE	7
10	1.3	4.6	S	25	15.1	N	6
11	1.4	5.8	SSE	3	14.5	SSE	17
12	1.2	4.6	S	7	13.6	S	7
R6.1	1.3	6.3	NNW	25	18.8	WNW	25
2	1.4	5.9	S	19	14.7	NW	16
3	1.5	5.7	S	29	16.7	SW	2
年	1.4	6.4	S	5/21	18.8	WNW	1/25

○羊ヶ丘実験林基本図



VI. 総務

1. 沿革

1908 年（明41）	6月	北海道庁告示第361号によって、江別村大字野幌志文別に内務省野幌林業試験場が設立された。
1927 年（昭 2）	9月	庁舎を江別町西野幌に新築・移転した。
1933 年（昭 8）	1月	北海道林業試験場と改組され、試験部（育林、利用、科学、保護、気象）、庶務部（庶務、会計、売買）が設置された。
1936 年（昭11）	10月	木材利用部が新設され、また森林標本館が設置された。 10月7日に昭和天皇陛下行幸、本場並びに附属試験林を見学された。
1937 年（昭12）	10月	上川森林治水保安試験所が開設された。
1939 年（昭14）	8月	釧路混牧林業試験所が開設された。
1940 年（昭15）	1月	帝室林野局北海道林業試験場が札幌市豊平に設立された。
1945 年（昭20）	8月	野幌試験林の管理経営を札幌営林署に移管した。
1947 年（昭22）	5月	林政統一により帝室林野局北海道林業試験場と北海道庁所管の北海道林業試験場を合併し、農林省林業試験場札幌支場に改組され、本部を野幌におき、豊平を分室とした。
1950 年（昭25）	4月 7月 12月	上川、釧路両試験所が、それぞれ試験地に名称変更された。 札幌営林局付属「森林有害動物調査所」が札幌支場の野鼠研究室になった。 木材利用部門は、本場に集中された。
1951 年（昭26）	7月	支場を札幌市に、また分室を西野幌においた（経営部、造林部、保護部、庶務課）。
1953 年（昭28）	10月	野幌の試験設備をすべて札幌市豊平に統合し、北海道支場と改めた。 野幌試験地が開設された。
1954 年（昭29）		経営部に牧野研究室を新設、調査室が庶務課から分離（昭22新設）、造林部種子研究室が育種研究室に名称変更された。
1955 年（昭30）		保護部病理昆虫研究室が昆虫及び樹病研究室に分離された。
1961 年（昭36）	5月 11月	千歳国営林において植樹祭が行われる。昭和天皇・皇后両陛下が支場に行幸された。 所期の目的が達せられたので、上川試験地は廃止された。
1965 年（昭40）	4月 9月	経営部牧野研究室が営農林牧野研究室に名称変更された。 所期の目的が達せられたので、釧路試験地は廃止された。
1967 年（昭42）	6月	会計課が新設された。
1968 年（昭43）	10月	創立60周年となり、祝典を行った。
1969 年（昭44）	4月	造林部造林研究室が造林第1及び造林第2研究室に分離された。
1970 年（昭45）	5月	経営部防災研究室が治山、防災研究室に分離された。
1972 年（昭47）	5月	羊ヶ丘への移転計画で実験林設置が決定されたため、野幌試験地は廃止された。調査室から実験林室が分離された。
1974 年（昭49）	10月	庁舎が札幌市豊平区豊平から同市豊平区羊ヶ丘へ移転し、施設の新築・整備が行われた。
1975 年（昭50）	4月	保護部野鼠研究室が鳥獣研究室に名称変更された。
1976 年（昭51）	3月 5月	羊ヶ丘における施設整備を完了した。 造林部が育林部に名称が変更された。
1978 年（昭53）	10月	創立70周年となり、一般公開及び祝典を行った。
1981 年（昭56）	4月	育林部育種研究室が遺伝育種研究室に名称変更された。
1988 年（昭63）	10月 10月	農林水産省組織規程の一部改正により森林総合研究所北海道支所に改組された。調査室が連絡調整室に、育林部造林第1、造林第2研究室は樹木生理、造林研究室に、経営部経営、営農林牧野研究室は天然林管理、経営研究室にそれぞれ名称変更された。また経営部治山研究室と防災研究室は防災研究室に統合された。 創立80周年となり、記念植樹を行った。
1998 年（平10）	10月	創立90周年となり、一般公開及び祝典を行った。
2001 年（平13）	4月	独立行政法人森林総合研究所北海道支所となり、組織が変更となった。部制、会計課及び研究室が廃止され、研究調整官、地域研究官、庶務課長補佐、5チーム長、5研究グループ（森林育成・植物土壌系・寒地環境保全・森林生物・北方林管理）が新設された。
2006 年（平18）	4月	実験林室を連絡調整室へ統合し、業務係を新設した。研究調整官が研究調整監に、地域研究官が地域研究監に職名が変更された。
2007 年（平19）	4月	庶務課職員厚生係を庶務係へ統合した。
2008 年（平20）	10月	創立100周年となり、記念植樹及び式典を行った。
2010 年（平22）	10月	育種調整監を新設した。
2011 年（平23）	4月	研究調整監が産学官連携推進調整監に職名が変更された。
2011 年（平23）	9月	11日、札幌市内にて開催の「国際微生物学連合2011会議」ご臨席のためご来道された天皇陛下が、当所標本館をご視察された。
2015 年（平27）	4月	独立行政法人の3分類により、国立研究開発法人となった。
2016 年（平28）	4月	産学官連携推進調整監を産学官民連携推進調整監に職名が変更され、連絡調整室を地域連携推進室に名称変更した。
2017 年（平29）	4月	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所北海道支所となった。
2018 年（平30）	4月	庶務課が総務課に名称変更された。
2018 年（平30）	10月	創立110周年となり、記念植樹及び式典を行った。

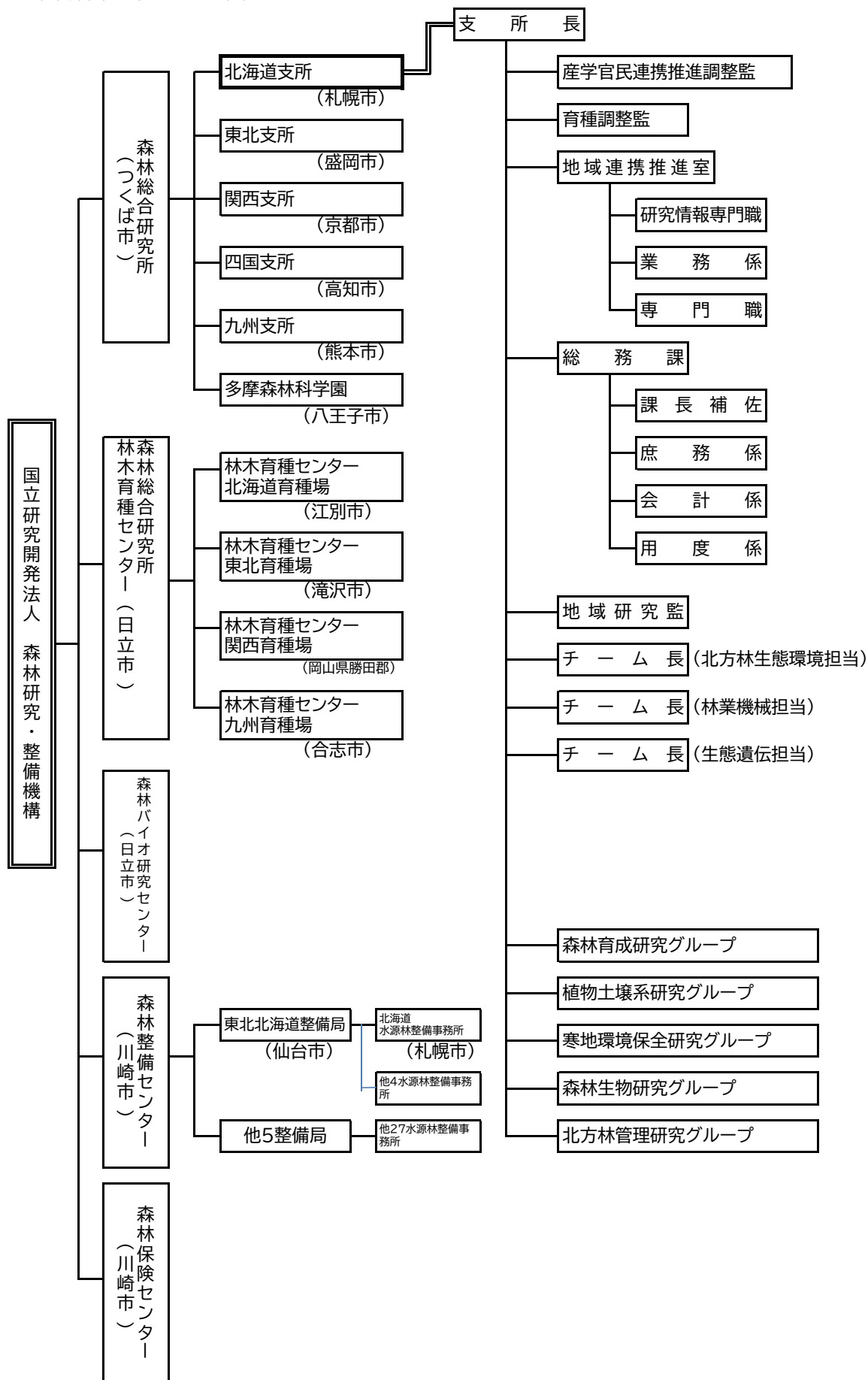
2. 土地・施設

○敷地・建物面積

(単位:㎡)

区 分	土 地 ・ 建 物		備 考
	構 造	面 積	
土 地		1,721,394	
建物敷地		55,668	
樹木園		62,900	
苗畑		38,590	
試験林ほか		1,564,236	
建 物(延)		7,638	
研究本館	RC-3	3,893	昭和49年8月10日 建築
特殊実験室	RC-1	848	昭和48年4月1日 建築
生物環境調節実験施設	RC-1	377	昭和49年10月12日 建築
野兎生態実験室	RC-1	142	昭和48年4月1日 建築
鳥類屋外実験室	RC-1	56	昭和49年10月12日 建築
温室	R -1	300	昭和49年10月12日 建築
樹病隔離温室	R -1	135	昭和49年10月12日 建築
日長処理施設	R -1	129	昭和49年10月12日 建築
苗畑調査実験室	RC-2	345	昭和48年4月1日 建築
鳥獣飼育場	R -1	222	平成15年12月18日 建築
標本館	RC-1	392	昭和49年10月12日 建築
その他		799	

3. 組織(令和6年4月1日現在)



4. 職員の異動(令和5年4月2日～令和6年4月1日)

○採用

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
6.4.1	河村 和洋	森林生物研究グループ	野生動物研究領域 鳥獣生態研究室 (任期付研究員)

○所内異動

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
6.4.1	横濱 大輔	地域連携推進室長	総務課課長補佐
6.4.1	渡邊 謙一	業務推進役(総務担当)	総務課長
6.4.1	吉田 厚	業務推進役(会計担当)	総務課庶務係長
6.4.1	土谷 直輝	総務課庶務係長	総務課会計係長
6.4.1	高畑 義啓	森林生物研究グループ長	チーム長(森林病害担当)

○転入

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
5.10.1	鄭 峻介	北方林管理研究グループ	森林管理研究領域 資源解析研究室
6.4.1	齊藤 哲	北海道支所長	企画部 研究評価科長
6.4.1	小野 英樹	総務課長	総務部経理課 課長補佐
6.4.1	酒井 武	森林育成研究グループ長	森林植生研究領域 チーム長(針広混交林施業担当)
6.4.1	飯田 真一	寒地環境保全研究グループ	森林防災研究領域 水保全研究室

○転出

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
6.4.1	倉持 寿啓	広報普及科 広報専門役	地域連携推進室長

○退職

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
6.3.31	吉田 和正		北海道支所長
6.3.31	伊東 宏樹		森林育成研究グループ長
6.3.31	石橋 靖幸		森林生物研究グループ長
6.3.31	辰巳 晋一		北方林管理研究グループ

5. 職員名簿(令和6年4月1日現在)

支所長	研究職	齊藤 哲			
産学官民連携推進調整監	研究職	藤原 健	森林育成研究グループ長	研究職	酒井 武
育種調整監(併任)	一般職	門脇 大輔	主任研究員	〃	北村 系子
(林木育種センター北海道育種場長)			〃	〃	関 剛
			〃	〃	津山幾太郎
地域連携推進室長	一般職	横濱 大輔	〃	〃	中西 敦史
研究情報専門職	〃	内山 拓			
専門職	〃	長澤 俊光	植物土壌系研究グループ長	研究職	北尾 光俊
業務係長	〃	熊谷 憲治	主任研究員	〃	矢崎 健一
再雇用	研究専門員	松崎 智徳	〃	〃	今村 直広
			〃	〃	梅村 光俊
総務課長	一般職	小野 英樹	研究員	〃	菅井 徹人
課長補佐		(欠)			
庶務係長	一般職	土谷 直輝	寒地環境保全研究グループ長	研究職	溝口 康子
会計係長	〃 (事)	小野 英樹	主任研究員	〃	飯田 真一
用度係長	〃	佐藤 正人	〃	〃	澤野 真治
係員	〃	山川 祥梧			
業務推進役(総務担当)	〃	渡邊 謙一	森林生物研究グループ長	研究職	高畑 義啓
業務推進役(会計担当)	〃	吉田 厚	主任研究員	〃	松浦友紀子
再雇用	一般専門員	室谷 邦彦	〃	〃	小長谷啓介
			〃	〃	山中 聡
地域研究監	研究職	嶋瀬 拓也	〃	〃	小林 卓也
			研究員	〃	河村 和洋
チーム長	〃	橋本 徹	再雇用	研究専門員	尾崎 研一
(北方林生態環境担当)			〃	〃	山口 岳広
チーム長	〃	佐々木達也	〃	〃	上田 明良
(林業機械担当)			〃	〃	矢部 恒晶
チーム長	〃	菊地 賢			
(生態遺伝担当)			北方林管理研究グループ長	研究職	天野 智将
			主任研究員	〃	鄭 峻介
			再雇用	研究専門員	石橋 聡
				研究職	27 名
				一般職	11 名
				再雇用(一)	1 名
				再雇用(研)	6 名

6. 事業予算額 (令和5年度)

(1) 事業予算額

(単位:千円)

事業科目名		予算額
事業費		22,043
一般研究費		18,505
	1ア／北海道	524
	1イ／北海道	736
	1ウ／北海道	6,223
	2ア／北海道	460
	2イ／北海道	1,775
	2ウ／北海道	23
	2エ／北海道	27
	連携推進費	500
	機械整備費	8,237
特別研究費		2,684
	交付金プロジェクト	2,684
基盤事業費		854
	基盤事業費	854
政府等受託事業費		2,550
農林水産省受託事業費		1,750
	農林水産技術会議事務局受託事業	1,150
	林野庁受託事業	600
環境省受託事業費		800
	地球環境保全試験研究費	800
地方公共団体受託事業		0
政府外受託事業費		8,275
	特殊法人等受託事業費(委託元政府)	5,345
	特殊法人等受託事業費(委託元政府外)	2,930
所内委託プロ		0
科学研究費補助金		26,216
寄付金事業		3,195
林野庁補助事業		0
研究管理費		44,305
一般管理費		34,692
施設整備費補助金		0
合 計		141,276

(2) 収入契約

(単位:千円)

事業科目名		予算額
事業収入		
	調査等依頼収入	289
事業外収入		
	資産貸付収入	44
	雑収入	0
合 計		333

2024 年 10 月発行 令和 6 年版 森林総合研究所北海道支所年報

編 集 ・ 発 行 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所北海道支所
(担当:地域連携推進室)

〒062-8516 北海道札幌市豊平区羊ヶ丘 7 番地
TEL(011)851-4131 FAX(011)851-4167
URL <https://www.ffpri.affrc.go.jp/hkd>

本誌から転載・複写する場合は、森林総合研究所北海道支所の許可を得て下さい。